

2024 年度
履修の手引き
(総合政策学部)



公立大学法人
島根県立大学

★下段は授業回次（「月1」＝月曜日1回目の授業）

2024 (令和6年)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	
			新入学生生活オリエンテーション・履修ガイダンス	入学式	春学期授業開始																										月曜授業日
			春学期履修登録期間（1年）										春学期履修取消期間																		
			春学期履修登録期間（1年以外）										履修登録修正期間（4年生のみ）																		
	授業回次			木1	金1			月1	火1	水1	木2	金2			月2	火2	水2	木3	金3			月3	火3	水3	木4	金4					月4

5	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	
									月曜授業日																							
	授業回次	水4	木5					火4	水5	月5	金5			月6	火5	水6	木6	金6		月7	火6	水7	木7	金7			月8	火7	水8	木8	金8	

6	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
	授業回次		月9	火8	水9	木9	金9			月10	火9	水10	木10	金10			月11	火10	水11	木11	金11			月12	火11	水12	木12	金12				

7	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	
													オープンキャンパス								（補講予備日）	（補講予備日）			水 春学期試験	”	”		”	”		
			春学期卒業研究提出期間（7/1～7/8 16:00まで）										春学期集中講義履修登録期間																			
	授業回次	月13	火12	水13	木13	金13			月14	火13	水14	木14	金14			火14	水15	木15	金15			月15	火15									

8	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		
	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土		
		夏季休業（9/15まで）												（事務局休業）	（事務局休業）	（事務局休業）																	
			異文化理解研修期間（ハワイコース除く） ※8/1～9/4までのうち指定期間																														
	授業回次																																

9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月		
																		水 春学期成績発表	木 追試験	金 追試験												月 春学期卒業式
			異文化理解研修										春学期集中講義期間（9/1～9/30）※期間外での開講の場合あり。詳細は別途時間割参照。																			
	授業回次																															

★春学期集中講義は上記期間外の夏季休業中に行われることがあります。 土、日、祝

★春学期試験の追試験は、講義担当教員の都合で夏季休業中に行われることがあります。 春季、夏季、冬季休業日

10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
授業 回数	午前 火1	午後 水1	午前 木1	午後 金1			月1	午後 火2	午前 水2	午後 木2	午前 金2				火3	午後 水3	午前 木3	午後 金3			月2	午後 火3	午前 水4	午後 木4	午前 金4			月3	午後 火4	午前 水5	午後 木5

11	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
授業 回数	午前 金5	午後 土5			月4	午後 水6	午前 木6	午後 金6			月5	午後 火5	午前 水7	午後 木7	午前 金7			月6	午後 火6	午前 水8	午後 木8	午前 金8			月7	午後 火7	午前 水9	午後 木9	午前 金9	

12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
授業 回数	午前 月8	午後 火8	午前 水10	午後 木10	午前 金10			月9	午後 火9	午前 水11	午後 木11	午前 金11			月10	午後 火10	午前 水12	午後 木12	午前 金12			月11	午後 火11								

2025年 (令和7年) 1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	水 (事務局休業)	木 (事務局休業)	金 (事務局休業)	土	日	月	火	水 月曜授業日	木	金	土	日	月	火	水	木	金 午後休講・午前火曜授業日	土 大学入学共通テスト	日 大学入学共通テスト	月	火	水	木	金	土 大学入学共通テスト(追試験)	日 大学入学共通テスト(追試験)	月	火	水	木	金
授業 回数	午前	午後					月12	午後 木13	午前 金13				火12	午後 水13	午前 木14	午後 火13			月13	午後 火14	午前 水14	午後 木15	午前 金14			月14	午後 火15	午前 水15	午後 木15	午前 金15	

2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
	土 (補講予備日)	日 (補講予備日)	月 秋学期試験	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木 追試験	金 追試験	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木 秋学期成績発表(4年生)	金
授業 回数	午前	午後																										

3	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	土 春季休業(3/31)	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水 一般選抜(後期)	木 一般選抜(後期)	金 秋学期成績発表(4年生以外)	土	日	月	火	水 卒業式	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
授業 回数	午前	午後																													

★秋学期集中講義は上記期間外の春季休業中に行われることがあります。 土、日、祝

★秋学期試験の追試験は、講義担当教員の都合で春季休業中に行われることがあります。 春季、夏季、冬季休業日

2024年度 履修の手引き [目次]

2024年度 学年暦

I	総合政策学部のカリキュラム	
1	教育目標	1
2	カリキュラム	2
3	総合政策学部のカリキュラム・マップ	3
II	修学にあたって	
1	年間スケジュール	5
2	履修登録	6
3	授業	9
4	単位数と授業時間数	13
5	卒業要件	14
	■卒業に必要な単位数	14
6	試験	15
7	成績評価	17
8	オフィスアワー	18
III	履修プログラムとクラス選択	
1	フレッシュマンセミナーのクラスについて	19
2	履修プログラムと総合演習クラスの選択について	20
IV	授業科目表	
	■2024年度総合政策学部総合政策学科授業科目表	21
	・基盤科目カリキュラムマップ	28
	・プログラム専門科目カリキュラムマップ	29
V	単位互換・単位認定について	
1	単位互換	33
2	資格試験による単位認定	35
VI	しまね地域マイスターについて	40
VII	授業科目インデックス	
	■2024年度授業科目インデックス	41
	■2024年度浜田キャンパス非常勤講師一覧	45
VIII	本学大学院への進学について	47

※本書の内容について、変更・訂正をおこなった場合は、学生情報システムに掲載しますので、確認するようにしてください。

I 総合政策学部のカリキュラム

1 教育目標

島根県立大学総合政策学部は「養成する人材像」を以下のように定めています。

<養成する人材像>

島根県立大学は、大学憲章のなかで教育理念を次のように定めています。

島根県立大学は、地域の先人である西周が標榜した“「純理の学」から「実践の学」にわたる諸科学の統合”をめざし、各専門領域における研究活動を深め、それにもとづく創造的な教育活動によって、現代社会の諸課題に国際的な視野からアプローチし、また、地域社会の活性化と発展に寄与する人材を養成することを使命とする。

島根県立大学は、幅広い市民的教養と高度の専門知識、豊かな人間性と高い倫理観を有し、主体的に問題を発見・整理・解決し、現代社会の諸分野において着実に貢献できる人材を養成する教育の府となることをめざす。

島根県立大学総合政策学部は「ディプロマ・ポリシー（卒業認定の方針）」を次のように定め、卒業要件として以下の知識・能力を身につけることを要請しています。

<ディプロマ・ポリシー（卒業認定の方針）>

1. 社会科学・人文科学の基本的知識を身につけ、それらを有機的に結びつけて理解すること。
2. 主体的に問題を発見・整理し、適切な解決策を導き、それを説得的に提示する能力を身につけること。
3. 国際化・情報化に対応したコミュニケーション能力を身につけること。

2 カリキュラム

教育目標を実現するために、島根県立大学総合政策学部は次の「カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）」にもとづいてカリキュラムを編成しています。

＜カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）＞

社会科学と人文科学分野の学問を幅広くかつ体系的に学ぶことができるよう、地理、歴史、文化、人間科学の講義科目を総合教養科目として、また社会、政治、国際関係、政策、法律、経済、経営、環境の基礎的な講義科目を基盤科目、より専門的な講義科目を専門科目として配置しています。

入学から卒業まで、主体的に学ぶための少人数セミナーを必修としています。初年次のフレッシュマン・スキル・セミナー、フレッシュマン・フィールド・セミナーは、高校までの学びと大学の学びを接続するためのセミナーです。2年次以降は、総合科演習に所属して専門教育を受けることになります。

専門教育では、「国際関係プログラム」「北東アジアプログラム」「社会経済プログラム」「地域政策プログラム」の4つのプログラムを置き、プログラムに応じた科目選択をおこなうことによって、専門的知識を体系的に学べるように設計されています。

外国語科目としては英語を第一外国語として、北東アジアの地域言語を第二外国語として配置しています。また情報収集・分析・発信のためのコミュニケーション・ツールとしての情報科目を配置しています。

◆授業科目と科目選択

島根県立大学総合政策学部の授業科目は「グローバルコミュニケーション科目」「総合教養科目」「基盤科目」「専門科目」「総合化演習科目」の5科目群にわかれています。これらの科目群は、それぞれ固有の教育内容と教育目標をもち、また互いに連携して、全体としてカリキュラム体系を形成しています。

また個々の科目は配当年次が指定されており、低学年においては一般的、基礎的科目を履修し、学年が上がるにつれてより応用的、専門的科目へと学んでいくように構成されています。一例をあげれば「基盤科目」と「専門科目」もそのような関係にあります。「基盤科目」は社会科学の基礎を幅広く学ぶことによって多角的な視野を身につけると同時に、「専門科目」を理解するために必要な知識と方法を知るための科目で、1，2年次に配当されています。「基盤科目」を幅広く学ぶことによって、自分がどのような専門に進むかを探求していただきたいと思います。

総合政策学部の授業科目は多分野に及び、また科目選択の自由度も高く設計されています。そのため、皆さんは学びの目的をしっかりと定め、体系的な学習ができるような科目選択をおこなうことが求められています。

※カリキュラム編成については、3・4ページのカリキュラム・マップを参照してください。

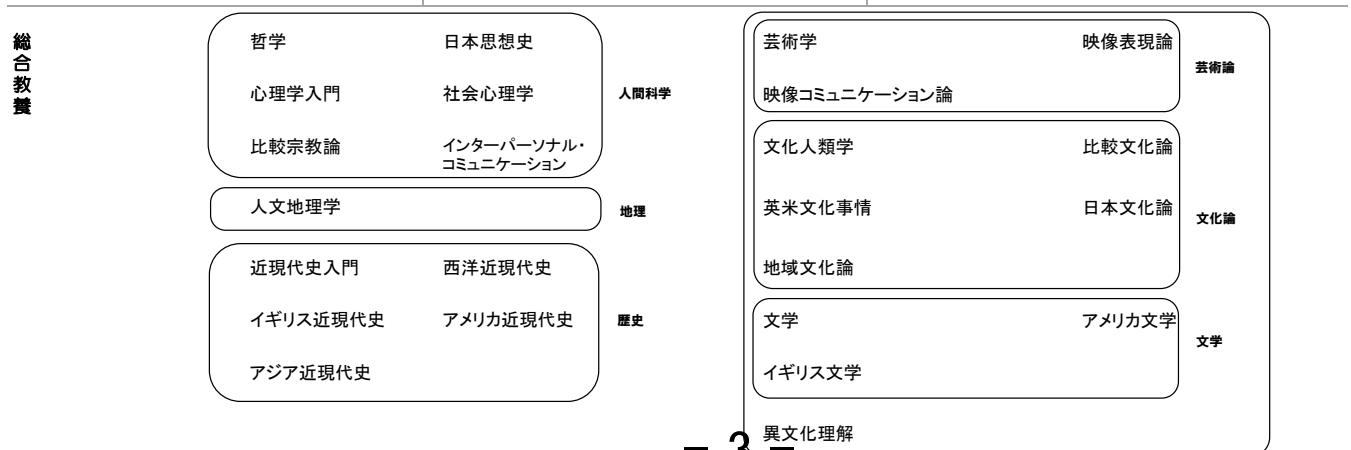
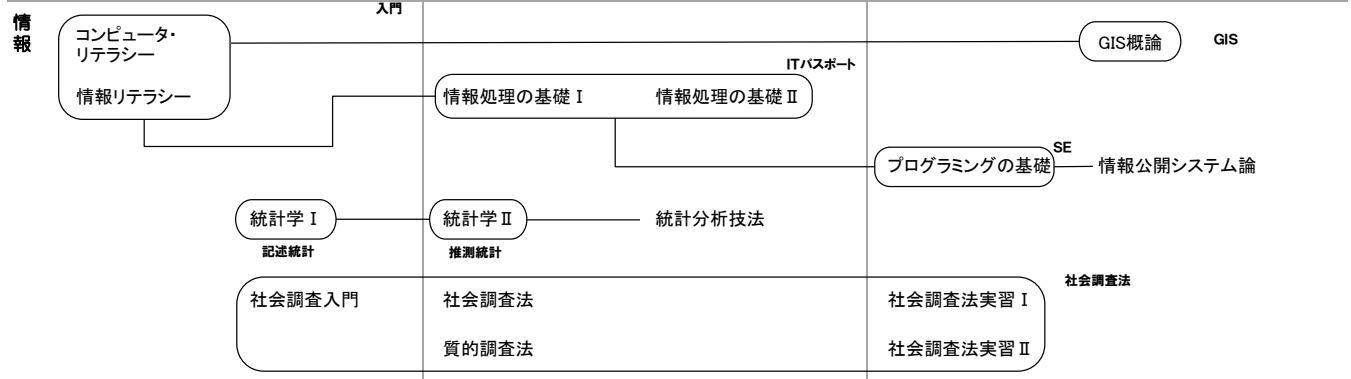
※4つの履修プログラム「国際関係プログラム」「北東アジアプログラム」「社会経済プログラム」「地域政策プログラム」については、21ページの2(1)「履修プログラム」を参照してください。

※授業科目と科目選択にあたっては、14ページから記載されている卒業要件をしっかりと確認してください。なお、入学年によって卒業要件が異なりますので注意してください。

総合政策学部カリキュラム・マップ

グローバルコミュニケーション科目・総合教養科目

1年		2年		3・4年				
英語	フレッシュマン英語 コミュニケーション I	フレッシュマン英語 コミュニケーション II	ソフモア 英語コミュニケーション I	ソフモア 英語コミュニケーション II	基礎・ コミュニ ケーション			
	フレッシュマン英語 ファウンデーション I	フレッシュマン英語 ファウンデーション II	多文化理解特別演習 I	多文化理解特別演習 II			上級英語 I (プレゼンテーションとスピーチ)	上級英語 II (ディスカッションとディベート)
	異文化コミュニケー ション実践英語	海外英語研修 I 海外英語研修 II	多文化理解特別演習 III					
		英語リーディング I	英語リーディング II 英字新聞リーディング	英米文学リーディング	リー ディ ング			
		中級英語 I (ハラグラライティング)	中級英語 II (エッセイライティング)	アカデミック・ ライティング	ライ ティ ング			
現代英文法 I	現代英文法 II	応用英語音声学 英語学概論 I	英語科教育法 I 英語学概論 II	英語科教育法 II 英語学特別演習 I	英語学特別演習 II	教 職		
第二外国語	中国語 I A	中国語 II A	中国語 III A	中国語 IV A	中国語 A			
	中国語 I B	中国語 II B	中国語 III B	中国語 IV B	中国語 B			
	中国語会話・ 聴解 I	中国語会話・ 聴解 II	中国語読解 I	中国語読解 II	中国語 B			
	韓国語 I A	韓国語 II A	韓国語 III A	韓国語 IV A	韓国語 A			
	韓国語 I B	韓国語 II B	韓国語 III B	韓国語 IV B	韓国語 B			
	韓国語会話・ 聴解 I	韓国語会話・ 聴解 II	韓国語読解 I	韓国語読解 II	韓国語 B			
	海外韓国語研修 I 海外韓国語研修 II							
	ロシア語 I	ロシア語 II	ロシア語 III	ロシア語 IV	ロシア語			
日本語 I・日本語 III 日本語 II・日本語 IV				日本語				
	モンゴル語と文化			モンゴル語				



基盤科目・専門科目

1・2年		2・3年		3・4年	
社会	しまね地域共生学入門	地域課題総合理解			
	社会科学入門	社会学	家族と福祉 福祉社会学	家族社会学	社会保障論
		社会学 基礎	地域社会学	生活時間構造論	地域と生活
			国際社会学	NPO・NGO論	国際社会 地域と公共
		中国社会学 ロシア社会学 朝鮮半島社会学	北東アジア社会		
		情報社会学	メディアと社会		
政治	政治学	政治思想史		安全保障論 平和学基礎論	
	政治学入門	国際政治学	中国政治外交論 アジア比較政治	朝鮮半島政治外交論 ロシア政治経済論	北東アジア政治・外交
国際関係		国際関係概論	国際機構論		
			北東アジア関係概論	日中関係論 日本朝鮮半島交流史	北東アジア国際関係
政策	行政学入門	行政学	コミュニティ政策 地方自治論	財政学	地域総合計画論 地方自治
			総合政策概論	政策過程論	水産経済政策論 文化政策論 経済政策論 地域産業政策論 公共政策論 経済政策論 経済政策基
法律	法学入門		行政法 I	行政法 II 労働法	行政法
			民法と家族 民法 I (総則)	民法 II (物権) 民法 III (債権)	商法 民事法
			憲法 I	憲法 II	憲法 国際法
			刑法	刑事法	
経済	経済学入門	マクロ経済学	ミクロ経済学	入門	
			世界経済論 国際開発論 国際経済	金融経済論 国際金融論 財政金融	専門基礎科目
			産業構造論 産業・流通	日本経済論 中国経済論	世界各国経済
		公共経済論 地域経済論	経済政策		
経営	経営学総論	経営管理論	中小企業論 経営組織論 現代企業論 地域経営論	経営戦略論 経営科学	経営
			会計学 企業会計	会計	
			マーケティング論 商学 地域観光資源論 地域経営		
環境	自然保護思想	環境保全論	環境文化論 文化	環境経済学 経済	
	コア科目		環境政策論 政策	環境関係法 法律	国際環境政治学 国際
キャリア体験	キャリア形成 I				キャリア形成 II
	インターンシップ入門				
	キャリアプラクティス				
	海外企業研修				
	山陰地域フィールド体験学習		ベンチャービジネス論 現代しまね学入門		

Ⅱ 修学にあたって

1 年間スケジュール

(1) 学修の流れ

本学部で学修をするにあたっての大きな流れは以下のとおりです。

- 履修登録…自分が履修をしようとする科目を登録します。
- 受講 講…履修登録をした授業は毎回出席してください。履修登録期間中も正規の授業期間ですので、受講希望の科目には、必ず初回講義から出席してください。
- 期末試験…試験に替えて課題提出となる科目もあります。
- 成績評価…科目担当教員が成績評価をします。成績は、学生情報システム (UNIPA) から参照できます。なお、年2回、大学から保護者の方に「成績通知書」を通知します。

(2) 本年度のスケジュール

本年度のスケジュールは以下のとおりです。

学期	項目	日程
春 学 期	講義期間	4/4(木)~7/23(火)
	履修登録	通常講義：4/1(月)~4/10(水) 集中講義：7/11(木)~7/18(木) 【注】集中講義の履修登録方法については学生情報システム (UNIPA) の「お知らせ」で周知します
	履修修正期間	4/12 (金) ~4/18 (木)
	期末試験	7/24(水)~7/30(火)
	集中講義	9/1(日)~9/30(月)
	成績発表 (予定)	9/18 (水)
秋 学 期	講義期間	10/1(火)~1/31(金)
	履修登録	通常講義：10/1(火)~10/7(月) 集中講義：12/9(月)~12/13(金) 【注】集中講義の履修登録方法については学生情報システム (UNIPA) の「お知らせ」で周知します
	履修修正期間	10/9 (水) ~10/15 (火)
	期末試験	2/3(月)~2/7(金)
	集中講義	2/15(土)~2/28(金)
	成績発表 (予定)	2/27(木)

2 履修登録

(1) 授業科目の区分

- ア. 必修科目：卒業までに必ず単位を修得しなければならない授業科目
- イ. 選択必修科目：科目群の中から選択し、卒業までに必ず単位を修得しなければならない授業科目
第二外国語は、中国語、韓国語、ロシア語、日本語（海外留学生のみ）のいずれか1つの言語を選び、単位修得しなければなりません。
- ウ. 選択科目：自由に選択して履修ができ、修得した単位について卒業に必要な単位として認められる授業科目
ただし、履修プログラム及び分野ごとに、卒業要件となる授業科目、単位数が定められています。
- エ. 自由科目：自分で自由に選択して履修を行い単位も認定されますが、卒業に必要な単位としては認められない授業科目

(2) 開講の種別

授業には、授業期間中に毎週開講する科目のほかに、隔週で開講されるもの（隔週開講科目）や授業を短期間に集中して行う科目（集中講義科目）があります。

毎週開講	毎週1コマの授業を行います（語学の授業の一部は週2コマ）。
隔週開講	2週間に1回2コマ連続で授業を行います。 （但し、隔週の授業実施とならない場合がありますので、講義日については時間割表の裏面で確認をしてください。）
集中講義	原則として、集中講義期間中に5日間程度の期間で1日3コマないし4コマの授業を行います。毎週開講する科目と異なり <u>欠席すると単位未修得となるリスクが高い</u> 講義ですのであらかじめ体調管理等、相当の準備・覚悟の上、履修してください。 ・春学期集中講義期間（9/1～9/30） ・秋学期集中講義期間（2/15～2/29） （なお、土、日、祝祭日や上記集中講義期間外の休業期間中に実施されることもあります。）

(3) 履修登録の意味

「履修登録」とは、各学期（春学期と秋学期）に履修したい授業科目を登録し、自分の「時間割」を作る作業のことです。この「履修の手引き」及び「シラバス（授業計画書）」を参考に「履修登録」を行います。

履修登録を怠ると、授業科目の受講者として認められず、結果として試験を受けて単位を修得することができなくなります。

本学部では、学生自らの主体的意思と学習意欲に応じて科目を選択履修できるように、幅広い分野の科目を提供しています。

特定の分野に偏らないよう配慮し、自らの学習の中心をどの分野に置くかを考えた上で、在学期間における学習目標を立て、計画的かつ効果的な履修を行うことが大切です。

(4) 履修登録の時期及び方法

履修登録は、各学期のはじめに自分で行います。

その学期に履修しようとする科目を、パソコンやスマートフォンを使って学生情報システム (UNIPA) の「履修登録画面」から登録をします。

科目によっては、受講できる人数を制限し、事前に受講生を決定することもありますので、学生情報システム (UNIPA) の「お知らせ」で確認してください。

受講を認められていない学生が許可なく履修登録を行っても、その科目の履修は認められませんので注意してください。

(5) 履修登録上の注意事項

ア. 卒業に必要な単位 (卒業要件)

本学部を卒業するには 124 単位 (必修科目と選択科目の合計) を修得する必要があります。さらに、科目区分ごとに修得しなければならない単位数が定められています。

2 年次以降、4 つのプログラムに分かれて履修をしますが、それぞれの プログラムによって卒業要件が異なっています。 自分が選択したプログラムの卒業要件を満たすように履修登録を行ってください。 ※卒業要件については「5 卒業要件」を参照してください。

イ. 年間履修登録単位数

1 年間で履修登録できる単位数の 上限は 40 単位 (「卒業研究」、「異文化理解」、「海外英語研修 I 及び II」、「海外韓国語研修 I 及び II」、「海外中国語研修」、「海外ロシア語研修」「海外企業研修」は除きます) です。これは、単位を修得するために必要な学習時間 (予習・復習など) を考慮して設けられた制限です。この単位数を超えて履修登録することは原則としてできません。

成績評価が「不可」「放棄」となった科目も、この 40 単位に含まれます。

ウ. 重複履修登録の禁止

同じコマ (ex.月曜日 1 時限目 = コマ) に複数科目を 履修登録することはできません。

また、集中講義についても、1 日でも講義日が重なっていると履修はできません。

「時間割」は全学年共通です。年度当初に学務課教務係から周知します。

エ. 既修得単位の再履修

既に単位を修得した授業科目については、以下の場合を除き、再度履修登録することはできません。

○異文化理解

研修に複数回参加した場合は、1 回目及び 2 回目の 4 単位までは卒業に必要な単位として認められます。3 回目については自由科目扱いとなり、卒業に必要な単位としては認められません (※同一大学での研修に複数回参加する場合、2 回目以降は単位の取得を認めません)。

○キャリアプラクティス【2015 年度以降入学生が対象】

「インターンシップ入門」を履修済みであることが履修の条件。

同一機関のインターンシップでなければ、2 回 (2 単位) まで認められます。

○海外企業研修（2024年度は非開講）

研修国が異なる場合は、2回（4単位）まで認められます。

ただし、卒業に必要な単位に算入できるのは「キャリアプラクティス」と「海外企業研修」を合わせて最大4単位までとします。

オ. 未修得単位の再履修

履修した授業科目の単位を修得できなかったときは、翌年度以降において再度履修登録することができます。（成績評価が「不可」及び「放棄」の場合）

なお、必修科目の単位を修得できなかったときは、翌年度に必ず再履修しなくてはなりません。

時間割上の授業科目の配置によっては、必修科目を再履修することにより、他の科目の履修登録ができなくなるなど学修計画に支障が生じることがあります。必修科目の単位については、配当年次に修得するように心がけてください。

カ. 配当年次

時間割表などに記載されている科目の「配当年次」とは、その学年以上の学生が履修できる、という意味です。たとえば2年次配当科目であれば、2～4年生が履修することができます。1年次配当科目は1年生しか履修できないというわけではありません。

キ. 履修人数の制限

授業の教育効果を高めるため、履修人数の制限を設ける授業科目があります。対象となる授業科目については、学生情報システム（UNIPA）でお知らせしますので、各自よく確認してください。

(6) 第二外国語の履修

ア. 「中国語」「韓国語」「ロシア語」について

中国語、韓国語、ロシア語については、1年次の春学期に「北東アジア地域の言語と文化（必修）」の授業において基礎的な学習を行い、学期末に3つの言語から1つを選択し、秋学期から履修します。

イ. 「中国語・韓国語」のクラス編成について

中国語、韓国語については「北東アジア地域の言語と文化」の成績、各自の希望等を勘案してA（ベーシック）クラスとB（インテンシブ）クラスに分かれて履修します。Bクラスは、「会話・聴解Ⅰ、Ⅱ」及び「読解Ⅰ、Ⅱ」を併せて履修しなければなりません。

Aクラスは、Ⅰ～Ⅳの単位を修得した場合のみ、「読解Ⅰ、Ⅱ」を履修できます。

ウ. 「日本語」の履修（海外留学生のみ）

留学生の皆さんは「日本語Ⅰ～Ⅳ」を、第二外国語の必修科目として履修します。留学生の皆さんが「日本語」に加えて他の第二言語を履修する場合は、語学選択科目として取り扱います。

3 授 業

(1) 学期

本学部は、1年を2学期に分けて授業を行っています。(=セメスター制)

春学期(4月～9月) 秋学期(10月～翌年3月)

(2) 授業時間

授業は、1回90分を単位として行います。この単位のことを、本学では「コマ」と言います。

1日の1限から6限までの授業時間は以下のとおりです。

第1時限	9:00～10:30	第4時限	14:50～16:20
第2時限	10:40～12:10	第5時限	16:30～18:00
第3時限	13:10～14:40	第6時限	18:10～19:40

ただし、語学科目(英語・第二外国語)の一部の授業は前半クラス・後半クラスに分けて、1回45分の授業を週2回行います。

第1時限	8:55～9:40(前半)	9:45～10:30(後半)
第2時限	10:35～11:20(前半)	11:25～12:10(後半)
第3時限	13:05～13:50(前半)	13:55～14:40(後半)
第4時限	14:45～15:30(前半)	15:35～16:20(後半)
第5時限	16:25～17:10(前半)	17:15～18:00(後半)
第6時限	※該当科目なし	

【対象科目】

[春学期]

(英語)フレッシュマン英語コミュニケーションⅠ、ソモア英語コミュニケーションⅠ、英語リーディングⅠ
(第二外国語)中国語Ⅱ〔A〕・〔B〕、韓国語Ⅱ〔A〕・〔B〕、ロシア語Ⅱ

[秋学期]

(英語)フレッシュマン英語コミュニケーションⅡ、ソモア英語コミュニケーションⅡ、英語リーディングⅡ
(第二外国語)中国語Ⅰ〔A〕・〔B〕、韓国語Ⅰ〔A〕・〔B〕、ロシア語Ⅰ

(3) 休講及び補講等

ア. 休講・補講

授業科目の担当教員が校務、出張、学会出席、病気などにより授業ができなくなった場合には、休講となります。休講した場合には原則として補講を行います。休講・補講については、学生情報システム(UNIPA)でお知らせしますので、毎日確認をするようにしてください。

イ. 教室変更

都合により教室を変更することがあります。この場合も学生情報システム(UNIPA)でお知らせをしますので、毎日確認をするようにしてください。

(4) 欠席

ア. 1週間以上継続して欠席する(した)場合(公欠にはなりません)

「欠席届」を学務課教務係まで提出してください。疾病又は負傷による場合は診断書を添付してください(欠席届を提出しても公欠にはなりません)。

イ. 公欠の取り扱いにより欠席する場合（公欠になります）

以下に該当する場合は、「欠席届」を学務課教務係まで提出すれば、公欠扱いとなります。欠席期間が1日でも届け出てください。

◇忌引（続柄・葬儀の場所によって公欠日数が違います。下表参照）

死亡した者	限度日数	備考
父母	7日	遠隔地に赴く必要のある場合には、実際に要した往復の日数を限度日数に加算することができます。
祖父母、兄弟姉妹	3日	
曾祖父母、伯叔父母、甥姪	1日	
配偶者	10日	
子	5日	

◇風水震災その他非常災害及び交通機関の事故等（証明できる書類を添付してください。）

◇裁判員制度（裁判員の参加する刑事裁判に関する規則）に基づき、裁判員に選任され、これを受諾したことにより、裁判に参加することが必要となった場合（証明できる書類を添付してください。）

ウ. 学校感染症に罹患し、出席停止を命じられた場合（公欠になります）

次の表に該当する病気にかかった場合は「出席停止」となります。

なお、感染症区分については法令等により変更となります。都度、学内メールや学生情報システム（UNIPA）等で周知します。

感染症区分	病名	出席停止期間
第一種	エボラ出血熱、 特定鳥インフルエンザなど	治癒するまで
第二種	インフルエンザ	発症後5日を経過し、かつ解熱後 2日間経過するまで
	新型コロナウイルス感染症	発症後5日を経過し、かつ症状が軽 快した後1日経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するか、5日間の抗菌性物 質製剤による治療終了まで
	麻疹	解熱後3日間経過するまで
	流行性耳下腺炎	腫れが出た後5日を経過し、かつ全身状態 が良好になるまで
	風疹	発疹が消失するまで
	水痘	すべての発疹が痂皮化するまで
	咽頭結膜熱	主要症状の消退後2日間経過するまで
第三種	結核、髄膜炎菌性髄膜炎	病状により医師において感染のおそれが ないと認めるまで
	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸 菌感染症、腸チフス、パラチフス、流 行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、 ※その他の感染症	病状により医師において感染のおそれが ないと認めるまで

※その他の感染症とは

学校での流行を防ぐため、必要があれば第三種の感染症として措置をとることができる疾患です。出席停止の指示をするかどうかは、地域や学校における感染症の発生・流行の態様などを考慮の上で判断されます。以下に条件によっては出席停止の措置が必要と考えられる感染症の例を挙げます。

- 溶連菌感染症 ○ウイルス性肝炎 ○手足口病 ○伝染性紅斑（りんご病）
- ヘルパンギーナ ○マイコプラズマ感染症 ○流行性嘔吐下痢症

学校感染症にかかった、又は、かかった疑いがある場合は、学務課学生支援係(0855-24-2202)まで必ず電話連絡をし、自宅等で静養し、外出を控えてください。医療機関で受診後、抗体検査の結果が出る間も公欠扱いとなります（ただし、陽性の場合に限ります）。出席停止期間満了後（回復した後）に「欠席届」に登校許可証明書または医療機関等の診断書を添付して提出することにより、公欠扱いとなります。

電話連絡をして出席停止を指示された日が公欠の起算日となりますので、必ず連絡をしてください。

エ. 就職活動により欠席する場合（公欠にはなりません）

就職活動により授業（集中講義は除く）を欠席する場合は、原則として、欠席後1週間以内に科目ごとの「就職活動による欠席届」（4年生以上のみ提出可能）を授業担当教員に提出してください。公欠にはなりません。授業担当教員の判断により適切な措置が講じられる可能性があります。なお、「就職活動による欠席届」を提出する際には就職活動の内容（日時、場所、活動内容）を明らかにして、本部棟1階事務室（学務課キャリア支援室）の確認を受けてください。本部棟1階事務室（学務課キャリア支援室）の確認印がない欠席届は無効になりますので注意してください。

ただし、島根県立大学総合政策学部履修規程第5条により出席授業時間数が全授業時間数の3分の2に満たない場合には試験を受けることができませんので、就職活動といえども安易に授業を欠席することがないように計画的に就職活動を行うようにしてください。

※「就職活動による欠席届」は本部棟1階事務室（学務課キャリア支援室）にあります。

(参考) 欠席理由別の届出様式と届出先及び添付書類

欠席理由	届出書	提出先	取扱	添付書類
忌引	欠席届	学務課 教務係	公欠	会葬礼状の写し等
風水震火災その他非常災害及び交通機関の事故等の場合				交通機関の発行する「事故証明」等
裁判員に選任された場合				通知書等
学校感染症に罹患し、出席停止を指示された場合				診断書の写し、登校許可証明書等
疾病などで <u>1週間以上</u> 継続して欠席する(した)場合			公欠には ならない	診断書の写し等
「異文化理解」の査証手続きによる場合				(事務局が確認をします)
<u>協定留学</u> の査証手続きによる場合				
災害ボランティア活動に参加する場合				
就職活動による場合 【対象：4年生以上】	就職活動による欠席届	科目担当 教員		(キャリア支援室職員が確認します)

なお、授業日数の少ない集中講義の欠席について、欠席の期間によっては履修(成績)上の配慮ができない場合がありますので注意してください。

各様式については、本部棟 1 階事務室①番窓口前にあるレターボックスにある用紙を使用して、提出してください。

(5) 異常気象及び自然災害等発生時の授業の取扱い

下記のような異常気象及び自然災害等が発生した場合は、原則として休講となります。

- ①浜田市において、気象にかかる特別警報(高潮、波浪を除く)又は台風による暴風警報が発令された場合。
- ②浜田市が野原地区(浜田キャンパス所在地)や浜田市中心部に「避難指示(警戒レベル4)」または「緊急安全確保(警戒レベル5)」を発令した場合。
- ③石見交通(大学線)が運休する場合。ただし、交通事故による運休は休講としない。
- ④浜田市において、「震度5強」以上の地震が発生した場合、又は「震度5弱」であっても大学の施設・設備に大きな被害が出ている場合。

※この場合は、当日又は翌日の授業等を休講とする。

この他の緊急事態が発生し、授業等の実施に支障があると認められる場合は、休講となる

こともありますので、大学からの案内を確認するようにしてください。
なお、「休講となる場合」「授業を行う場合」はそれぞれ次のとおりです。

■ 1・2限の授業について

午前7時時点で上記①～③が発生している場合・・・1～2限休講

午前7時時点で上記①～③が解除された場合・・・1～2限授業

■ 3～6限の授業について

午前11時時点で上記①～③が発生している場合・・・3～6限休講

午前11時時点で上記①～③が解除された場合・・・3～6限授業

確認は自分で気象庁の発表する気象情報や各種HP等により確認してください。休講となった授業科目については、後日補講を実施しますので、担当教員からの指示や学生情報システム（UNIPA）を確認するようにしてください。

4 単位数と授業時間数

各授業科目には単位数が定められています。単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを原則とし、授業方法に応じて次の基準により計算しています。

ア. 講義及び演習……15時間の授業をもって1単位とします。

イ. 実習及び実技……30時間の授業をもって1単位とします。

文部科学省が定める大学設置基準により、2単位を修得するためには、授業時間90分（2時間とみなす）＋授業外学修時間（予習90分＋復習90分→各2時間とみなす）の合計6時間の学修を15週にわたって学修する必要があります。すなわち学期中に90時間の学修をもって2単位を修得するということになります。ここで言う「学修時間」とは「授業時間」と「授業外学修時間」を合わせた時間で単に習得の目安です。単位修得にはこの定められた学修時間をこなすことが前提となります。本学部の授業科目のうち、ほとんどの講義科目・演習科目は2単位科目ですが、これは、1回1コマの授業が15週にわたって行われることから、2時間×15週＝30時間の授業をもって2単位としているものです。

講義科目（2単位）の単位を修得するには、この「30時間の授業」に加えて、授業外学修時間として「60時間の自習」が必要ということですので、授業だけ出席していれば良いというわけではありません。先生方が課題を課すというのは、この授業外学修時間のために「課題を課す」ということになります。

5 卒業要件

本学に4年以上在学し所定の授業科目を履修し、かつ、卒業に必要な総単位数124単位（必修科目と選択科目の合計）を修得すれば卒業が認定されます。

卒業が認定された場合、以下の学位を取得できます。

学部	学科	学位
総合政策学部	総合政策学科	学士（総合政策学）

また、上記の総単位数の他に「科目群」と呼ばれる科目の分野ごとに単位を修得する必要があります。

本学では、2年次から4つのプログラムに分かれて単位を修得しますが、プログラム毎に卒業要件が異なっています。

次表をよく確認して、自分が選択したプログラムにおいて卒業に必要な単位を計画的に修得するように心がけてください。

【卒業に必要な単位数：2016年度以降入学生用】

区 分			卒業要件単位数				
			必修	選択			
				国際関係	北東アジア	社会経済	地域政策
グローバルコミュニケーション科目	語 英語	6	1 2	1 0	4	4	
	学 第二外国語	6	(注1)	(注1)	(注1)	(注1)	
	情報	8	2	2	6	8	
総合教養科目	人間科学	—					
	地理・歴史	—	1 0	1 0	1 0	1 0	
	文化	—					
基盤科目(注2)		4	1 8	1 8	1 8	1 8	
専門科目	プログラム専門(注3)	—	1 2	1 2	1 2	1 2	
	全領域(注4)	4	1 0	1 2	1 4	1 2	
総合化演習科目		1 6	—	—	—	—	
卒業研究		4	—	—	—	—	
自由選択科目(注5)		—	1 2	1 2	1 2	1 2	
合 計		4 8	7 6	7 6	7 6	7 6	

必修科目：全ての学生が履修しなければならない科目

選択科目：科目群の区分ごとに定められているものの中から選択して履修する科目

(注1) 選択した第二外国語の選択科目の単位数が不足する場合は、英語の授業科目の中から履修してください。

(注2) 「基盤科目」は幅広い知識を身につけるための各分野の基礎的科目です。選択科目については、できるだけ1、2年生のときに履修するように心がけてください。

(注3) 「プログラム専門」は、プログラムにおける推奨科目ですので、自分が選択したプログラムで定められている科目の中から選択して履修してください。

(注4) 「全領域」は「プログラム専門」からも選択可能です。プログラム専門の修得単位数が卒業要件単位数を超えた部分は、「全領域」の卒業要件単位に含めることができます。「全領域」の卒業要件単位数を超えた部分は自由選択科目の単位として算定されます。

(注5) 上記の各プログラムの科目区分における選択科目で必要な単位を超えて単位を修得した場合、「自由選択科目」の単位として算入します。

6 試 験

(1) 試験

授業科目を履修し、その試験に合格した学生には、所定の単位が与えられます。

- ア. 試験は、学期末に期間を定めて実施します。ただし、担当教員が必要と認めるときには、随時試験を行い、この結果をもって成績評価を行うことがあります。
- イ. 試験の時間割等は、学生情報システム（UNIPA）の「お知らせ」等により周知します。

(2) 受験資格

次に該当する場合は、試験を受けることができませんので、注意してください。

ア. 履修登録をしていない科目

イ. 履修登録した科目で出席時間数が全時間数の3分の2に満たない科目

(3) 受験にあたっての注意事項

- ア. 試験時間までには入室し、着席しておくこと。
- イ. 学生証を必ず持参し、机の上に提示すること。忘れた場合は、事務局1階事務室（学務課教務係）で仮学生証の交付を受けること。
- ウ. 筆記用具、学生証及び教員が認めたもの以外は机の上に置かないこと。
- エ. 必要のないノートや書籍、筆箱などは鞆等の中に入れること。
- オ. 携帯電話は退室まで電源を切って鞆にしまうこと。
- カ. 時計（時計型端末を含む）は退室まで鞆等の中にしまうこと。
- キ. 遅刻は30分まで認めるが、遅刻しないよう注意すること。
- ク. 試験開始後、30分を経過しないと退室できません。
- ケ. 終了の合図があったら直ちに筆記用具を置いて答案を提出すること。
- コ. 試験を受けた場合は、答案用紙を持ち帰らないこと。持ち帰った場合は不正行為とみなします。

※万が一、不正行為があった場合には、当該授業科目の履修が無効となるほか、学則第49条の規定及び「島根県立大学における学生の懲戒に関する規程」に基づき懲戒（退学・停学・）処分となります。試験中は、不正行為はもちろんのこと、紛らわしい行為もしないように注意してください。

(4) 追試験

次の理由により、試験を受けることができなかった場合には、当該科目の試験終了後7日以内に、欠席の理由を明らかにした証明書等を添付のうえ、追試験願を本部棟1階事務室（学務課教務係）に提出し、学長の許可を得て追試験を受けることができます。

- ア. 疾病（⇒医師の診断書が必要）
- イ. 忌引き（⇒会葬礼状等の写しが必要）
- ウ. 交通機関の突発事故（⇒事故証明書等が必要）
- エ. 突発的な災害等
- オ. 裁判員制度に基づき、裁判員に選任され、これを受諾したことにより、裁判に参加することが必要となった場合

(5) 就職活動と学期末試験が重複した場合

就職活動のために学期末試験を受けることができなかった場合は、以下に該当する場合のみ追試験の対象となります。就職活動のために授業を欠席する場合と同様、**調整ができる場合には学期末試験を最優先**してください。

- ①企業等の指定する日時に選考試験（面接を含む）を受ける場合。
- ②企業等の指定する日時に当該企業等を訪問又は当該企業が開催する説明会に参加する場合。
- ③内定企業から呼び出しを受けた場合は、①②に準じて取り扱うものとする。

ただし、学期末試験と重複しない日時を選択できる余地がある場合は、選考試験や説明会等の日時調整をすること。調整可能であるにもかかわらず、選考や説明会等に参加して試験を欠席した場合は、追試験を認めない。

どうしても調整できず学期末試験を欠席する場合には、原則として、欠席後7日以内に科目ごとの「就職活動による欠席届」を授業担当教員に提出してください。なお、「就職活動による欠席届」を提出する際には就職活動の内容（日時、場所、活動内容）を明らかにして、本部棟1階事務室（学務課キャリア支援室）の確認を受けてください。

さらに、当該科目の試験終了後7日以内に、「就職活動による欠席届」（学務課キャリア支援室の確認を受けたもの）の写しを添付の上、「追試験願」を本部棟1階事務室（学務課教務係）まで提出してください。

(6) 再試験（卒業年次生のみ対象）

試験の結果が「不可」となった場合に、なお当該科目の単位を修得したいときは、次年度以降に再履修しなければなりません。ただし、卒業する学期においてやむを得ない事情があると認められる場合には、再試験を行うことがあります。

再試験は4単位を上限に受験が認められます。

なお、再試験を行って単位が修得できた場合の評価は「可」のみです。

「放棄」となった科目は再試験の対象にはなりません。

(7) 異常気象及び自然災害等発生時の試験の取扱い

取扱いについては、「3 授業（5）異常気象及び自然災害等発生時の授業の取扱い」と同じです。その他の取扱いについて指示する場合がありますので、学生情報システム（UNIPA）の「お知らせ」には常に注意をしてください。

7 成績評価

(1) 成績評価

ア. 成績の評価は、試験の結果ばかりでなく、論文・レポート・出席状況等により科目担当教員が総合的に判断します。

イ. 2017年度入学生より、成績の評価が細分化され、秀、優、良、可及び不可によることとしました。(2016年度以前入学生は、優、良、可及び不可)

このうち、可以上の成績を修めた場合、合格とします。

(2017年度以降入学生)

「秀」…………… 90点以上

「優」…………… 80点以上 90点未満

「良」…………… 70点以上 80点未満

「可」…………… 60点以上 70点未満

「不可」……… 60点未満

(2016年度以前入学生)

「優」…………… 80点以上

「良」…………… 70点以上 80点未満

「可」…………… 60点以上 70点未満

「不可」……… 60点未満

ウ. 履修登録をしながら、例えば「試験を受けない」、「出席日数が足りない」、「レポートを提出しない」などの履修状況により担当教員が成績評価の対象とならないと判断した場合は「放棄」とし、成績評価を行いません。

学生が履修登録した科目を放棄する意味ではありません。

エ. 「不可」「放棄」とされた科目の単位も、年間の履修登録制限単位数(40単位)に含まれますので、注意してください。

オ. 担当教員が成績発表までに評価を一時的に保留する場合がありますが、この場合は、成績通知書等には「保留」と表示されます。なお、成績が確定次第、いずれかの評価に変更となります。

(2) GPA

GPA (Grade Point Average) とは、学期及び累積の成績を以下の計算式で数値化し、教育の質の向上を図る制度です。成績表に表示されるGPAを意識して、修学に励むよう心がけてください。

$$\text{学期GPA} = \frac{\text{当該学期の「秀」の単位数} \times 4 + \text{「優」の単位数} \times 3 + \text{「良」の単位数} \times 2 + \text{「可」の単位数} \times 1}{\text{当該学期の総履修登録単位数}}$$

$$\text{累積GPA} = \frac{\text{全期間の「秀」の単位数} \times 4 + \text{「優」の単位数} \times 3 + \text{「良」の単位数} \times 2 + \text{「可」の単位数} \times 1}{\text{全期間の総履修登録単位数}}$$

※「総履修登録単位数」には、「不可」や「放棄」となった科目の単位数も含まれます。

(3) 履修修正制度 (2017年度以降入学の4年生のみ対象)

GPA制度導入に伴い、履修登録した科目を受講した後のミスマッチを解消する制度です。履修を修正する場合は、下記期間に、「履修登録変更願」を教務係へ提出してください。

春学期	4月12日(金) 8時40分 ~ 4月18日(木) 17時15分
秋学期	10月9日(水) 8時40分 ~ 10月15日(火) 17時15分

※集中講義については、初日講義終了後までに提出してください。

(4) 不服申立

履修した科目の成績評価に関し、質問や疑問がある場合は、その科目を履修した学期の成績発表後1ヶ月以内に、担当教員に対して説明を求めることができます。さらに、担当教員の説明に不服がある場合は、成績評価に対する不服申立てを行うことができます。

8 オフィスアワー

オフィスアワーは、学生の皆さんが学業や学校生活全般に関する質問や相談、あるいは個人的な指導等を受けるための時間であり、全専任教員が設定しています。

オフィスアワーの時間帯は教員毎に設定されています。学期始めに学生情報システム (UNIPA) の「お知らせ」に掲載しますので、各自よく確認をして、指示に従ってください。この時間帯以外の教員研究室の訪問を制限するものではありませんが、講義・会議等で不在の場合もありますので、なるべくオフィスアワーを活用してください。

Ⅲ 履修プログラムとクラス選択

1 フレッシュマンセミナーのクラスについて（再履修生のみ対象）

(1) 「フレッシュマンセミナー」とは

「フレッシュマンセミナー」は、1年次に配当された少人数教育のゼミナールで、大学で学ぶために必要な姿勢と基礎的な技術とを実践を通じて身につけることを目的としています。春学期には、大学での講義の聴き方・ノートの作り方や文献調査の方法などのアカデミックスキルズ学習をおこなう「フレッシュマン・スキル・セミナー」を、秋学期には、地域に出かけ、自己の学習課題を発見し、学習目標を探求する「フレッシュマン・フィールド・セミナー」を配置しています。

(2) 「フレッシュマン・スキル・セミナー」のクラス分け

「フレッシュマン・スキル・セミナー」は、1年次配当の必修科目のため、2021年度からは再履修生のみが履修の対象となります。大学が予め指定をしたクラスにおいて履修をします。クラス分けは対象学生に別途通知します。

(3) 「フレッシュマン・フィールド・セミナー」のクラス分け

「フレッシュマン・フィールド・セミナー」は、1年次配当の必修科目のため、2021年度からは再履修生のみが履修の対象となります。大学が予め指定をしたクラスにおいて履修をします。クラス分けは対象学生に別途通知します。

2 履修プログラムと総合演習クラスの選択について

(1) 「履修プログラム」とは

本学部では学生の皆さんの将来の進路設計に合わせて、系統立てた学習ができるように「国際関係プログラム」、「北東アジアプログラム」、「社会経済プログラム」、「地域政策プログラム」の4つの履修プログラムを設けています。

◇国際関係プログラム

日本をはじめとする主要な国や地域の政治、経済、社会などの各分野について、社会的・歴史的背景や文化等を多角的に学ぶことを通じて、社会制度や経済協力関係などの理解を深めることにより、国際社会の中で社会活動を行う上で活かせる知識を蓄え、状況を分析する能力を高めます。

◇北東アジアプログラム

中国、朝鮮半島、モンゴル、東シベリアに日本を加えた北東アジア地域を中心に、政治、経済、社会、民俗、文化、言語等を総合的に学ぶことにより、将来、この地域において多方面にわたり活躍できるように、幅広い知識を蓄えコミュニケーション能力を高めます。

◇社会経済プログラム

現代社会における経済領域、経営領域及び法学領域に関する基礎的な知識を身につけるとともに、現代における多様な社会活動の実態を理解し、そこに内在する課題を発見し解決するための専門的な知識を蓄えることにより、企業等で活かせる実践的な問題解決能力を高めます。

◇地域政策プログラム

現代社会を理解するために、社会の仕組みや文化・思想・価値などを幅広く学ぶとともに、政策原理や社会調査手法などの専門的知識を系統的に学ぶことによって、急速な高度情報化や少子高齢化等によって発生する諸課題を解決するための政策を立案する能力を高めます。

(2) 「総合演習」とは

「総合演習」は同一教員の指導の下に2年次から4年次まで履修し、本学部での学びの集大成となる卒業研究まで行う重要な科目です。

(3) 「履修プログラム」及び「総合演習」クラスの選択方法について（参考）

2年次に学年が進む際に、フレッシュマンセミナーの担当教員の指導を得ながら、4つの履修プログラムの中から自分が学習したいプログラムを1つ、「総合演習」を担当する教員の中から1人を選びます（希望者数が多い場合は、教員による選考があります）。

「履修プログラム」及び「総合演習」クラスの選択方法については、対象学生に別途通知します。各クラスの人数は、原則として8名です。

(4) 「履修プログラム」及び「総合演習」クラスの変更

原則として一度選択した「履修プログラム」及び「総合演習」のクラスは変更することはありません。ただし、2年次から3年次に進む段階で、進路変更等によりどうしても「履修プログラム」又は「総合演習」クラスの変更を行いたい場合は、「総合演習」の担当教員か本部棟1階事務室教務係まで申し出てください。

IV 授業科目表

2024年度総合政策学部総合政策学科授業科目表

分野区分	科目名	配当年次	単位数	マイスター	履修プログラム				特記事項
					国際関係	北東アジア	社会経済	地域政策	
グローバルコミュニケーション科目	フレッシュマン英語ファウンデーションⅠ	1春	1		●	●	●	●	
	フレッシュマン英語ファウンデーションⅡ	1秋	1		●	●	●	●	
	フレッシュマン英語コミュニケーションⅠ	1春	1		●	●	●	●	
	フレッシュマン英語コミュニケーションⅡ	1秋	1		●	●	●	●	
	ソフモア英語コミュニケーションⅠ	2春	1		●	●	●	●	
	ソフモア英語コミュニケーションⅡ	2秋	1		●	●	●	●	
	英語リーディングⅠ ^(注1)	2春	1		○	○	○	○	(注1)2024年度非開講。
	英語リーディングⅡ ^(注1)	2秋	1		○	○	○	○	(注1)2024年度非開講。
	英文法Ⅰ ^(注2)	1春	1		○	○	○	○	(注2)2019年度以前入学生対象科目。2024年度非開講。
	英文法Ⅱ ^(注2)	1秋	1		○	○	○	○	
	現代英文法Ⅰ ^(注3)	1春	2		○	○	○	○	(注3)2020年度以降入学生対象科目。2024年度非開講。
	現代英文法Ⅱ ^(注3)	1秋	2		○	○	○	○	
	海外英語研修Ⅰ	1・2・3・4春	2		○	○	○	○	(注1)2024年度非開講。
	海外英語研修Ⅱ	1・2・3・4秋	2		○	○	○	○	
	応用英語音声学 ^(注1)	2春	2		△	△	△	△	(注1)2024年度非開講。
	英語学概論Ⅰ	2春	2		○	○	○	○	
	英語学概論Ⅱ	2秋	2		○	○	○	○	
	異文化コミュニケーション実践英語 ^(注4)	1・2秋	1		○	○	○	○	(注4)「異文化理解」(米国)履修者を優先する。
	多文化理解特別演習Ⅰ	2・3・4春	2		○	○	○	○	
	多文化理解特別演習Ⅱ	2・3・4秋	2		○	○	○	○	
	多文化理解特別演習Ⅲ ^(注1)	2・3・4秋	2		○	○	○	○	(注1)2024年度非開講。
	英字新聞リーディング	2・3・4秋	2		○	○	○	○	
	英米文学リーディング	3・4春	2		○	○	○	○	
	英語学特別演習Ⅰ ^(注1)	3春	2		△	△	△	△	(注1)2024年度非開講。
	英語学特別演習Ⅱ ^(注1)	3秋	2		△	△	△	△	
	中級英語Ⅰ(パラグラフ・ライティング)	2春	2		○	○	○	○	(注1)2024年度非開講。
	中級英語Ⅱ(エッセイ・ライティング)	2秋	2		○	○	○	○	
	上級英語Ⅰ(プレゼンテーションとスピーチ)	3春	2		○	○	○	○	
	上級英語Ⅱ(ディスカッションとディベート)	3秋	2		○	○	○	○	
アカデミック・ライティング	3春	2		△					
北東アジア地域の言語と文化	1春	2		●	●	●	●	(注1)2024年度非開講。	
中国語Ⅰ(A)・(B)	1秋	1		■	■	■	■		
中国語Ⅱ(A)・(B)	2春	1		■	■	■	■		
中国語Ⅲ(A)・(B)	2秋	1		■	■	■	■		
中国語Ⅳ(A)・(B)	3春	1		■	■	■	■		
中国語会話・聴解Ⅰ ^(注1)	1秋	1		□	□	□	□	(注1)2024年度非開講。	
中国語会話・聴解Ⅱ ^(注1)	2春	1		□	□	□	□		
中国語読解Ⅰ ^(注6)	2・3秋	2		□	□	□	□	(注6)Bクラスは選択必修、AクラスはⅠ～Ⅳまで修得した場合のみ履修可	
中国語読解Ⅱ ^(注6)	3・4春	2		□	□	□	□		
海外中国語研修 ^(注7)	3春	2		○/◎	○/◎	○/◎	○/◎	(注7)2020年度以降入学生対象。2019年度以前入学生については自由科目。	
韓国語Ⅰ(A)・(B)	1秋	1		■	■	■	■		
韓国語Ⅱ(A)・(B)	2春	1		■	■	■	■		
韓国語Ⅲ(A)・(B)	2秋	1		■	■	■	■		
韓国語Ⅳ(A)・(B)	3春	1		■	■	■	■		
韓国語会話・聴解Ⅰ ^(注1)	1秋	1		□	□	□	□	(注1)2024年度非開講。	
韓国語会話・聴解Ⅱ ^(注1)	2春	1		□	□	□	□		
韓国語読解Ⅰ ^(注6)	2・3秋	2		□	□	□	□	(注6)Bクラスは選択必修、AクラスはⅠ～Ⅳまで修得した場合のみ履修可	
韓国語読解Ⅱ ^(注6)	3・4春	2		□	□	□	□		
海外韓国語研修Ⅰ ^(注8)	1・2・3・4春	2		○	○	○	○	(注8)2015年度以降入学生対象科目	
海外韓国語研修Ⅱ ^(注8)	1・2・3・4秋	2		○	○	○	○		
ロシア語Ⅰ ^(注1)	1秋	1		■	■	■	■		
ロシア語Ⅱ ^(注1)	2春	1		■	■	■	■	(注1)2024年度非開講。	
ロシア語Ⅲ ^(注1)	2秋	1		■	■	■	■		
ロシア語Ⅳ ^(注1)	3春	1		■	■	■	■		
海外ロシア語研修 ^(注7)	3春	2		○/◎	○/◎	○/◎	○/◎	(注7)2020年度以降入学生対象。2019年度以前入学生については自由科目。	
日本語Ⅰ ^(注9)	1春	1		■	■	■	■		
日本語Ⅱ ^(注9)	1春	1		■	■	■	■	(注9)外国人留学生のみ履修を認める	
日本語Ⅲ ^(注9)	1秋	1		■	■	■	■		
日本語Ⅳ ^(注9)	1秋	1		■	■	■	■		
モンゴル語と文化	2・3・4春	2		○	○				

※履修しているプログラムに印のついていない科目を履修した場合の自由選択科目の単位に算入されます。

分野区分	科目名	配当年次	単位数	マイスター	履修プログラム				特記事項
					国際関係	北東アジア	社会経済	地域政策	
グローバルコミュニケーション科目	コンピュータリテラシー	1春	2		●	●	●	●	(注1)2016年度以降入学生から選択科目とする。 (注1)2024年度非開講。 (注1)2024年度非開講。 (注1)2024年度非開講。 (注1)2024年度非開講。 (注1)2024年度非開講。 (注1)2024年度非開講。 (注1)2024年度非開講。 (注1)2024年度非開講。 (注1)2024年度非開講。 (注1)2024年度非開講。 (注1)2024年度非開講。 (注1)2024年度非開講。 (注1)2024年度非開講。 (注1)2024年度非開講。 (注1)2024年度非開講。
	情報リテラシー	1春	2		●	●	●	●	
	情報処理の基礎Ⅰ ^(注1)	2春	2		○/●	○/●	○/●	○/●	
	情報処理の基礎Ⅱ ^(注1)	2秋	2		○	○	○	○	
	プログラミングの基礎	3・4春	2		○	○	○	○	
	情報公開システム論	3・4秋	2				○	○	
	GIS概論 ^(注1)	3・4秋	2					○	
	統計と数学 ^(注1)	1春	2		○	○	○	○	
	統計学Ⅰ	1秋	2		●	●	●	●	
	統計学Ⅱ	2春	2		●	●	●	●	
	統計分析技法 ^(注1)	2秋	2				○	○	
	社会調査入門 ^(注1)	1秋	2	▼	○	○	○	○	
	社会調査法	2秋	2	▽			○	○	
	質的調査法	2春	2	▽	○	○	○	○	
	社会調査法実習Ⅰ	3春	2		○	○	○	○	
社会調査法実習Ⅱ	3秋	2		○	○	○	○		

総合教養科目	人間科学	哲学 ^(注1)	1・2秋	2		○	○	○	○	(注1)2024年度非開講。 (注1)2024年度非開講。 (注1)2024年度非開講。 (注1)2024年度非開講。 (注1)2024年度非開講。 (注1)2024年度非開講。
		比較宗教論	2・3・4秋	2		○	○	○	○	
		日本思想史	2・3・4春	2	▽	○	○	○	○	
		心理学入門	2・3・4春	2		○	○	○	○	
		社会心理学 ^(注1)	2・3・4春	2		○	○	○	○	
		インターパーソナル・コミュニケーション ^(注1)	2・3・4春	2		○	○	○	○	
	地理・歴史	人文地理学	2・3・4秋	2	▽	○	○	○	○	
		近現代史入門	1・2春	2		○	○	○	○	
		西洋近代史	2・3・4春	2		○	○	○	○	
		アジア近現代史	2・3・4春	2		○	○	○	○	
		アメリカ近現代史	2・3・4春	2		○	○	○	○	
		イギリス近現代史	2・3・4春	2		○	○	○	○	
	文化	文学	2・3・4春	2		○	○	○	○	(注1)2024年度非開講。 (注1)2024年度非開講。 (注1)2024年度非開講。 (注1)2024年度非開講。 (注1)2024年度非開講。 (注1)2024年度非開講。 (注1)2024年度非開講。 (注1)2024年度非開講。 (注1)2024年度非開講。 (注1)2024年度非開講。 (注1)2024年度非開講。 (注1)2024年度非開講。
		アメリカ文学	2・3・4秋	2		○	○	○	○	
		イギリス文学	2・3・4春	2		○	○	○	○	
		芸術学	2・3・4秋	2		○	○	○	○	
		映像表現論	2・3・4秋	2		○	○	○	○	
		映像コミュニケーション論	2・3・4春	2		○	○	○	○	
		文化人類学	2・3・4春	2	▽	○	○	○	○	
比較文化論		2・3・4秋	2		○	○	○	○		
英米文化事情 ^(注1)		2・3・4秋	2		○	○	○	○		
日本文化論		2・3・4秋	2	▽	○	○	○	○		
地域文化論		2・3・4秋	2	▽	○	○	○	○		
異文化理解		2春秋	2		○	○	○	○		

※履修しているプログラムに印のついていない科目を履修した場合は、自由選択科目の単位に算入されます。

分野区分	科目名	配当年次	単位数	マイスター	科目区分	特記事項
基盤科目	しまね地域共生学入門 ^(注8)	1 春	2	▼	●	(注8)2015年度以降入学生対象科目
	社会科学入門 ^(注1)	1 春	2	▼	○	(注1)2024年度非開講。
	社会学	1・2 秋	2		○	(注1)2024年度非開講。
	メディア入門 ^(注1)	1・2 春	2			
	情報社会論	2・3 春	2		○	
	福祉社会学	2・3 秋	2		○	
	政治学入門	1 春	2		○	
	政治	政治学	1・2 秋	2		○
		政治思想史	2・3 春	2		○
		国際政治学入門	1・2 春	2		○
		国際関係	国際関係概論	2・3 秋	2	
	政策	行政学入門	1 春	2		○
		行政学	1・2 秋	2		○
		総合政策概論	2 春	2	▼	●
	法律	法学入門	1 春	2		○
		憲法 I	1・2 秋	2		○
		刑法	1・2 秋	2		○
		民法と家族	1・2 秋	2		○
		民法 I (総則)	1・2 秋	2		○
	経済	経済学入門	1 春	2		○
		マクロ経済学	1・2 秋	2		○
		ミクロ経済学	2・3 秋	2		○
	経営	経営学総論	1 春	2		○
		経営管理論	1・2 秋	2		○
		会計学	2・3 春	2		○
	環境	自然保護思想	1 春	2		○
		環境保全論	1・2 秋	2		○
	キャリア体験	現代しまね学入門 ^(注1)	2 春	2	▼	○

分野区分	科目名	配当年次	単位数	マイスター	プログラム専門科目				特記事項
					国際関係	北東アジア	社会経済	地域政策	
社会	地域課題総合理解 ^(注1)	2春	1	▼					(注1)2024年度非開講。
	地域社会学	2・3 秋	2	▽				○	
	NPO・NGO論	2・3・4春	2	▽	○	○	○	○	
	生活時間構造論 ^(注1)	2・3・4秋	2						(注1)2024年度非開講。
	社会保障論	3・4 春	2	▽			○		
	家族社会学	2・3 春	2					○	
	国際社会論	2・3 秋	2		○	○			
	中国社会論	2・3 春	2		○	○			
	朝鮮半島社会論	2・3 秋	2		○	○			
ロシア社会論	2・3 春	2		○	○				
政治	安全保障論	3・4 秋	2		○	○			
	平和学基礎論	3・4 秋	2		○				
	国際政治学	2・3 秋	2		○				
	中国政治外交論	2・3 秋	2		○	○			
	朝鮮半島政治外交論	3・4 春	2		○	○			
	ロシア政治経済論	3・4 秋	2		○	○			
	戦後日本政治外交史	3・4 秋	2		○	○			
アジア比較政治	2・3・4春	2		○	○				
国際関係	国際機構論	2・3 春	2		○				
	北東アジア関係概論	2・3 秋	2		○	○			
	日中関係論	3・4 秋	2		○	○			
	日本朝鮮半島交流史	3・4 秋	2	▽	○	○			
政策	コミュニティ政策	2・3 春	2	▽				○	
	財政学	2・3 春	2	▽			○	○	
	地域総合計画論	3・4 春	2	▽				○	
	政策過程論	2・3 春	2					○	
	地方自治論	2・3 春	2	▽				○	
	公共政策論	3・4 春	2	▽			○	○	
	経済政策論	3・4 秋	2				○	○	
	情報政策論	3・4 秋	2	▽				○	
	文化政策論	3・4 春	2	▽				○	
	水産経済政策論	3・4 春	2	▽			○		
地域産業政策論	3・4 秋	2	▽			○	○		
法律	憲法Ⅱ	2・3 春	2					○	
	行政法Ⅰ	2・3 春	2	▽				○	
	行政法Ⅱ	2・3 秋	2	▽				○	
	労働法	2・3・4 春	2					○	
	国際法	3・4 春	2		○	○		○	
	民法Ⅱ(物権)	2・3 春	2					○	
	民法Ⅲ(債権)	2・3 春	2					○	
	商法	3・4 春	2				○	○	
経済	公共経済論	2・3 春	2	▽			○		
	金融経済論 ^(注1)	2・3 春	2				○		
	産業構造論 ^(注1)	2・3 春	2	▽			○		(注1)2024年度非開講。
	日本経済論 ^(注1)	2・3・4 春	2	▽			○		
	地域経済論	2・3 秋	2	▽			○	○	
	世界経済論 ^(注1)	2・3 春	2	▽	○	○	○		(注1)2024年度非開講。
	国際開発論	2・3 春	2		○	○	○		
	国際金融論 ^(注1)	3・4 秋	2		○	○	○		(注1)2024年度非開講。
中国経済論 ^(注1)	3・4 秋	2		○	○	○		(注1)2024年度非開講。	

※履修しているプログラムに印のついていない科目を履修した場合は、全領域の単位に算入されます。

分野区分	科目名	配当年次	単位数	マイスター	プログラム専門科目				特記事項
					国際関係	北東アジア	社会経済	地域政策	
経営	現代企業論	2・3 秋	2	▽			○		(注10)2016年度以前入学生対象。2024年度非開講。 (注11)2018年度以降入学生対象。2017年度以前入学生については自由科目。 (注12)2018年度以降入学生対象。2017年度以前入学生については「組織行動論」の (注13)2013年度以前入学生対象。2024年度非開講。 (注11)2018年度以降入学生対象。2017年度以前入学生については自由科目。
	企業会計	2・3 春	2				○		
	キャリア論 ^(注10)	2・3 春	2				○		
	経営戦略論 ^(注11)	3・4 春	2				○/◎		
	経営科学	2・3・4 春	2				○		
	経営組織論 ^(注12)	2・3 秋	2				○		
	マーケティング論	2・3 秋	2	▽			○		
	中小企業論	2・3 春	2	▽			○		
	実践中小企業・ベンチャー経営論 ^(注13)	2・3 春	2						
	地域経営論 ^(注11)	2・3 春	2				○/◎	○/◎	
地域観光資源論	2・3 秋	2	▽				○		
環境	環境政策論	2・3 春	2	▽				○	(注1)2024年度非開講。
	環境関係法	2・3 秋	2					○	
	環境文化論	2・3・4 春	2	▽				○	
	環境経済学	2・3 秋	2	▽	○		○	○	
	国際環境政治学 ^(注1)	3・4 秋	2		○	○			
キャリア体験	キャリア形成Ⅰ	1 春	2		●	●	●	●	(注13)2013年度以前入学生対象。2024年度非開講。 (注14)2017年度以前入学生対象。2024年度非開講。 (注1)2024年度非開講。 (注1)2024年度非開講。 (注10)2016年度以前入学生対象。2024年度非開講。 (注15)2014年度以前入学生対象。2024年度非開講。
	キャリア形成Ⅱ	3 春	2		●	●	●	●	
	キャリア形成実習 ^(注13)	2 春	2						
	中小企業実務 ^(注14)	2・3 春	2						
	ベンチャービジネス論	2・3 春	2	▽			○	○	
	山陰地域フィールド体験学習	1・2 春	2	▽					
	インターンシップ入門 ^(注1)	1・2・3 春秋	1						
	キャリアプラクティス	1・2・3 春秋	1						
	海外企業研修 ^(注1)	1・2・3 春秋	2						
	地域社会体験 ^(注10)	1・2 春秋	1						
企業体験実習 ^(注15)	1・2・3 春秋	2							

※履修しているプログラムに印のついていない科目を履修した場合は、全領域の単位に算入されます。

分野区分	科目名	配当年次	単位数	マイスター	履修プログラム				特記事項	
					国際関係	北東アジア	社会経済	地域政策		
総合化演習科目	フレッシュマン・スキル・セミナー ^(注1)	1 春	2		■	■	■	■	(注1)2024年度非開講。	
	フレッシュマン・フィールド・セミナー ^(注1)	1 秋	2		■	■	■	■		
	総合演習Ⅰ ^(注16)	2 春	2		■	■	■	■		(注16)指導教員と調整のうえ、履修登録をください。
	総合演習Ⅱ ^(注16)	2 秋	2		■	■	■	■		
	総合演習Ⅲ ^(注16)	3 春	2		■	■	■	■		
	総合演習Ⅳ ^(注16)	3 秋	2		■	■	■	■		
	総合演習Ⅴ ^(注16)	4 春	2		■	■	■	■		
	総合演習Ⅵ ^(注16)	4 秋	2		■	■	■	■		
	卒業研究 ^(注16)	4 秋	4		■	■	■	■		
	地域共生演習Ⅰ ^(注17)	2 春	2	▼	■	■	■	■	(注17)マイスターコースのみ履修を認める。	
	地域共生演習Ⅱ ^(注17)	2 秋	2	▼	■	■	■	■		
	地域共生演習Ⅲ ^(注17)	3 春	2	▼	■	■	■	■		
	地域共生演習Ⅳ ^(注17)	3 秋	2	▼	■	■	■	■		
	地域共生演習Ⅴ ^(注17)	4 春	2	▼	■	■	■	■		
	地域共生演習Ⅵ ^(注17)	4 秋	2	▼	■	■	■	■		
地域共生卒業研究 ^(注17)	4 秋	4	▼	■	■	■	■			

教職科目	体育実技Ⅰ ^(注1)	1・2・3・4 春	1		◎	◎	◎	◎	(注1)2024年度非開講。
	体育実技Ⅱ ^(注1)	1・2・3・4 秋	1		◎	◎	◎	◎	(注1)2024年度非開講。
	教職入門 ^(注1)	2・3 春	2		◎	◎	◎	◎	(注1)2024年度非開講。
	教育学 ^(注1)	2・3 春	2		◎	◎	◎	◎	(注1)2024年度非開講。
	教育心理学 ^(注1)	2・3 秋	2		◎	◎	◎	◎	(注1)2024年度非開講。
	教育課程編成論 ^(注1)	2・3 秋	2		◎	◎	◎	◎	(注1)2024年度非開講。
	公民科教育法Ⅰ ^(注1)	2・3 秋	2		◎	◎	◎	◎	(注1)2024年度非開講。
	英語科教育法Ⅰ ^(注1)	2・3 秋	2		◎	◎	◎	◎	(注1)2024年度非開講。
	公民科教育法Ⅱ ^(注1)	3・4 春	2		◎	◎	◎	◎	(注1)2024年度非開講。
	英語科教育法Ⅱ ^(注1)	3・4 春	2		◎	◎	◎	◎	(注1)2024年度非開講。
	教育行政学 ^(注1)	3・4 春	2		◎	◎	◎	◎	(注1)2024年度非開講。
	教育方法論 ^(注1)	3・4 春	2		◎	◎	◎	◎	(注1)2024年度非開講。
	生徒指導論 ^(注1)	3・4 秋	2		◎	◎	◎	◎	(注1)2024年度非開講。
	進路指導論 ^(注1)	3・4 春	2		◎	◎	◎	◎	(注1)2024年度非開講。
	教職実践演習 ^(注1)	4 秋	2		◎	◎	◎	◎	(注1)2024年度非開講。
	教育実習指導 ^(注1)	4 春	1		◎	◎	◎	◎	(注1)2024年度非開講。
	高等学校教育実習 ^(注1)	4 春	2		◎	◎	◎	◎	(注1)2024年度非開講。

【留意事項】

- 履修プログラム欄の凡例：●必修 ■選択必修(第二外国語、総合演習化科目) ○選択 □選択(第二外国語) △選択(担当教員の了解を得られれば履修可) ◎自由
- 教職欄の凡例：◆自由(英語教職必修) ◇自由(英語教職選択) ★自由(公民教職必修) ☆自由(公民教職選択)
- マイスター欄の凡例：▼必修 ▽選択
- 科目区分欄の凡例：●必修 ○選択
- プログラム専門科目欄の凡例：○プログラム専門科目(選択) ※○印のないプログラムについては全て全領域科目扱いとなります。

基盤科目（27科目） ※網掛けの科目

	1・2年	2・3年	3・4年	
社会	<p>しまね地域共生学入門</p> <p>社会科学入門</p> <p>社会学 基礎</p>	<p>地域課題総理解</p> <p>家族と福祉</p> <p>福祉社会学</p> <p>地域社会学</p> <p>国際社会学</p> <p>中国社会学論 ロシア社会学論 朝鮮半島社会学論</p> <p>情報社会学</p> <p>メディアと社会</p>	<p>家族社会学</p> <p>生活時間構造論</p> <p>NPO・NGO論</p> <p>北東アジア社会</p>	<p>社会保障論</p> <p>地域と生活</p> <p>国際社会 地域と公共</p>
政治	<p>政治学</p> <p>政治学入門</p> <p>国際政治学入門</p>	<p>政治思想史</p> <p>国際政治学</p> <p>中国政治外交論 アジア比較政治</p>	<p>安全保障論 平和学基礎論 戦後日本政治外交史</p> <p>朝鮮半島政治外交論 ロシア政治経済論</p>	<p>北東アジア政治・外交</p>
国際関係		<p>国際関係概論</p> <p>国際機構論</p> <p>北東アジア関係概論</p>	<p>日中関係論</p> <p>日本朝鮮半島交流史</p>	<p>北東アジア国際関係</p>
政策	<p>行政学入門</p> <p>行政学</p>	<p>コミュニティ政策 地方自治論</p> <p>総合政策概論</p> <p>財政学</p> <p>政策過程論</p>	<p>地域総合計画論</p> <p>水産経済政策論 情報政策論</p> <p>文化政策論 地域産業政策論</p> <p>公共政策論</p> <p>経済政策論</p>	<p>地方自治</p> <p>経済政策論 経済政策基礎</p>
法律	<p>法学入門</p> <p>民法と家族 民法Ⅰ（総則）</p> <p>憲法Ⅰ</p> <p>刑法</p>	<p>行政法Ⅰ</p> <p>民法Ⅱ（物権） 民法Ⅲ（債権）</p> <p>憲法Ⅱ</p> <p>憲法</p> <p>刑事法</p>	<p>行政法Ⅱ 労働法</p> <p>商法</p> <p>国際法</p>	<p>行政法</p> <p>民法</p> <p>国際法</p>
経済	<p>経済学入門</p> <p>マクロ経済学</p>	<p>ミクロ経済学</p> <p>入門</p> <p>世界経済論</p> <p>金融経済論</p> <p>産業構造論</p> <p>日本経済論</p> <p>公共経済論</p>	<p>国際開発論</p> <p>金融経済論</p> <p>国際金融論</p> <p>産業・流通</p> <p>地域経済論</p> <p>国際経済</p> <p>財政金融</p> <p>中国経済論</p> <p>経済政策</p>	<p>専門基礎科目</p> <p>世界各国経済</p>
経営	<p>経営学総論</p> <p>経営管理論</p>	<p>中小企業論 経営組織論 現代企業論 地域経営論</p> <p>会計学</p> <p>マーケティング論</p>	<p>経営戦略論</p> <p>企業会計</p> <p>地域観光資源論</p> <p>経営科学</p>	<p>経営</p>
環境	<p>自然保護思想</p> <p>環境保全論</p>	<p>環境文化論</p> <p>環境政策論</p> <p>文化</p> <p>政策</p>	<p>環境経済学</p> <p>環境関係法</p> <p>経済</p> <p>法律</p>	<p>国際環境政治学</p> <p>国際</p>
キャリア体験	<p>キャリア形成Ⅰ</p> <p>インターシップ入門 キャリアプラクティス</p> <p>海外企業研修</p> <p>山陰地域フィールド体験学習</p>	<p>ベンチャービジネス論 現代しまね学入門</p>	<p>キャリア形成Ⅱ</p>	

プログラム専門科目【国際関係プログラム】（24科目） ※網掛けの科目

1・2年		2・3年		3・4年	
社会	しまね地域共生学入門	地域課題総合理解			
	社会科学入門	家族と福祉 福祉社会学	家族社会学	社会保障論	
	社会学 基礎	地域社会学	生活時間構造論		地域と生活
		国際社会学	NPO・NGO論		国際社会 地域と公共
		中国社会学	ロシア社会学	朝鮮半島社会学	北東アジア社会
		情報社会学	メディアと社会		
政治	政治学	政治思想史		安全保障論	平和学基礎論
	政治学入門	国際政治学	中国政治外交論	戦後日本政治外交史	
	国際政治学入門		アジア比較政治	朝鮮半島政治外交論	ロシア政治経済論
					北東アジア政治・外交
国際関係		国際関係概論	国際機構論		
			北東アジア関係概論	日中関係論	日本朝鮮半島交流史
					北東アジア国際関係
政策	行政学入門	コミュニティ政策 地方自治論	財政学	地域総合計画論	地方自治
	行政学	総合政策概論	政策過程論	水産経済政策論 情報政策論	文化政策論 地域産業政策論
				公共政策論	経済政策論
					経済政策基礎
法律	法学入門	行政法 I	行政法 II 労働法		行政法
	民法と家族 民法 I (総則)	民法 II (物権) 民法 III (債権)		商法	民事法
	憲法 I	憲法 II	憲法	国際法	国際法
	刑法	刑事法			
経済	経済学入門	マクロ経済学	ミクロ経済学 入門		
			世界経済論	国際開発論	国際経済
			金融経済論	国際金融論	財政金融
			産業構造論		専門基礎科目
			日本経済論	中国経済論	世界各国経済
		公共経済論	地域経済論		経済政策
経営	経営学総論	経営管理論	中小企業論	経営戦略論	経営科学
	基礎	理論	経営組織論		経営
			現代企業論		
		地域経営論	会計		
		会計学	企業会計		
		マーケティング論	商学		
			地域観光資源論		地域経営
環境	自然保護思想	環境保全論	環境文化論	文化	環境経済学
	コア科目		環境政策論	政策	環境関係法
				法律	
					国際環境政治学
					国際
キャリア体験	キャリア形成 I				キャリア形成 II
	インターシップ入門 キャリアプラクティス				
	海外企業研修				
	山陰地域フィールド体験学習	ベンチャービジネス論	現代しまね学入門		

プログラム専門科目【北東アジアプログラム】（19科目） ※網掛けの科目

	1・2年	2・3年	3・4年
社会	しまね地域共生学入門 社会科学入門	地域課題総理解 家族と福祉 福祉社会学 地域社会学 国際社会学 中国社会学 ロシア社会学 朝鮮半島社会学	家族社会学 社会保障論 生活時間構造論 NPO・NGO論 北東アジア社会
	社会学 基礎 メディア入門	情報社会学 メディアと社会	社会と生活 国際社会 地域と公共
政治	政治学 政治学入門 国際政治学入門	政治思想史 国際政治学 中国政治外交論 アジア比較政治	安全保障論 平和学基礎論 戦後日本政治外交史 朝鮮半島政治外交論 ロシア政治経済論 北東アジア政治・外交
	国際関係	国際関係概論 国際機構論 北東アジア関係概論	日中関係論 日本朝鮮半島交流史 北東アジア国際関係
政策	行政学入門 行政学	コミュニティ政策 地方自治論 総合政策概論 政策過程論	地域総合計画論 地方自治 水産経済政策論 文化政策論 情報政策論 地域産業政策論 公共政策論 経済政策論 経済政策基礎
	法学入門	行政法 I 行政法 II 労働法 民法と家族 民法 I (総則) 民法 II (物権) 民法 III (債権) 憲法 I 憲法 II 刑法	行政法 民法 国際法
経済	経済学入門 マクロ経済学	ミクロ経済学 入門 世界経済論 国際開発論 金融経済論 産業構造論 日本経済論 公共経済論 地域経済論	国際経済 財政金融 国際金融論 専門基礎科目 中国経済論 世界各國経済 経済政策
	経営学総論 経営管理論 基礎 理論	中小企業論 経営組織論 現代企業論 地域経営論 会計学 企業会計 マーケティング論 商学 地域観光資源論 地域経営	経営戦略論 経営科学 経営 会計
環境	自然保護思想 環境保全論 コア科目	環境文化論 文化 環境政策論 政策 環境経済学 経済 環境関係法 法律	国際環境政治学 国際
キャリア体験	キャリア形成 I インターシップ入門 キャリアプラクティス 海外企業研修 山陰地域フィールド体験学習	ベンチャービジネス論 現代しまね学入門	キャリア形成 II

プログラム専門科目【社会経済プログラム】（27科目） ※網掛けの科目

	1・2年	2・3年	3・4年
社会	しまね地域共生学入門 社会科学入門 社会学 基礎 メディア入門	地域課題総合理解 家族と福祉 福祉社会学 家族社会学 地域社会学 生活時間構造論 国際社会学 NPO・NGO論 中国社会学 ロシア社会学 朝鮮半島社会学 情報社会学 メディアと社会	社会保障論 地域と生 国際社会 地域と公共 北東アジア社会
政治	政治学 政治学入門 国際政治学入門	政治思想史 国際政治学 中国政治外交論 アジア比較政治	安全保障論 平和学基礎論 戦後日本政治外交史 朝鮮半島政治外交論 ロシア政治経済論 北東アジア政治・外交
国際関係		国際関係概論 国際機構論 北東アジア関係概論	日中関係論 日本朝鮮半島交流史 北東アジア国際関係
政策	行政学入門 行政学	コミュニティ政策 地方自治論 総合政策概論 政策過程論	地域総合計画論 地方自治 水産経済政策論 文化政策論 経済政策論 情報政策論 地域産業政策論 公共政策論 経済政策論 経済政策基礎
法律	法学入門 民法と家族 民法I（総則） 憲法I 刑法	行政法I 行政法II 労働法 民法II（物権） 民法III（債権） 憲法II 憲法 刑事法	行政法 民法 国際法
経済	経済学入門 マクロ経済学	ミクロ経済学 入門 世界経済論 国際開発論 国際経済 金融経済論 国際金融論 財政金融 産業構造論 産業・流通 日本経済論 中国経済論 世界各国経済 公共経済論 地域経済論 経済政策	専門基礎科目
経営	経営学総論 経営管理論 基礎 理論	中小企業論 経営組織論 現代企業論 地域経営論 会計学 企業会計 マーケティング論 商学 地域観光資源論 地域経営	経営戦略論 経営科学 経営 会計
環境	自然保護思想 環境保全論 コア科目	環境文化論 文化 環境経済学 経済 環境政策論 政策 環境関係法 法律	国際環境政治学 国際
キャリア体験	キャリア形成I インターンシップ入門 キャリアプラクティス 海外企業研修 山陰地域フィールド体験学習	ベンチャービジネス論 現代しまね学入門	キャリア形成II

プログラム専門科目【地域政策プログラム】（29科目） ※網掛けの科目

1・2年		2・3年		3・4年	
社会	しまね地域共生学入門	地域課題総合理解			
	社会科学入門	家族と福祉 福祉社会学 家族社会学 地域社会学 生活時間構造論 国際社会学論 NPO・NGO論 中国社会学論 ロシア社会学論 朝鮮半島社会学論	社会保障論 地域と生 国際社会 地域と公共 北東アジア社会		
	社会学 基礎 メディア入門	情報社会学論 メディアと社会			
政治	政治学	政治思想史		安全保障論 平和学基礎論	
	政治学入門	国際政治学	中国政治外交論 アジア比較政治	戦後日本政治外交史 朝鮮半島政治外交論 ロシア政治経済論	北東アジア政治・外交
	国際政治学入門				
国際関係		国際関係概論	国際機構論		
			北東アジア関係概論	日中関係論 日本朝鮮半島交流史	北東アジア国際関係
政策	行政学入門	コミュニティ政策 地方自治論	財政学 政策過程論	地域総合計画論 地方自治 水産経済政策論 情報政策論 文化政策論 経済政策論 地域産業政策論 公共政策論 経済政策論 経済政策基礎	
	行政学	総合政策概論			
法律	法学入門	行政法Ⅰ 行政法Ⅱ 労働法		行政法	
	民法と家族	民法Ⅱ(物権) 民法Ⅲ(債権)		民法	
	民法Ⅰ(総則)				
	憲法Ⅰ	憲法Ⅱ 憲法		国際法	国際法
	刑法	刑事法			
経済	経済学入門	ミクロ経済学	入門		
	マクロ経済学	世界経済論 国際開発論 国際経済 金融経済論 国際金融論 財政金融 産業構造論 産業・流通 日本経済論 中国経済論 世界各国経済 公共経済論 地域経済論 経済政策		専門基礎科目 経済政策	
経営	経営学総論	中小企業論 経営組織論 現代企業論 地域経営論		経営戦略論 経営科学	経営
	経営管理論	会計学 企業会計 マーケティング論 商学 地域観光資源論 地域経営		会計	
環境	自然保護思想	環境文化論 文化	環境経済学 経済		
	環境保全論	環境政策論 政策	環境関係法 法律	国際環境政治学	国際
	コア科目				
キャリア体験	キャリア形成Ⅰ			キャリア形成Ⅱ	
	インターシップ入門				
	キャリアプラクティス				
	海外企業研修				
	山陰地域フィールド体験学習	ベンチャービジネス論 現代しまね学入門			

V 単位互換・単位認定について

1 単位互換

(1) 他学部の授業科目の履修について

本学の他学部（国際関係学部、地域政策学部、看護栄養学部、人間文化学部）が開講する授業科目の履修を希望する場合は、事務局学務課教務係にご相談ください。授業科目の担当教員の許可を得て、履修を許可することがあります。

(2) 他の大学等における授業科目の履修について

所定の手続きをすることで、本学以外の大学等の授業科目を履修することができます。また、本学部では下記の大学等と単位互換協定を締結しており、次のとおり制度を運用しています。

<島根大学>

派遣できる学部	医学部を除く全学部
履修科目	島根大学が指定する授業科目のうち、本学が有益と認める科目
履修期間	1年以内
履修申込申請締切	春学期・・・前年度の1月末 秋学期・・・当該年度の6月末
その他	①島根大学での授業料の負担はありません。 ②島根大学への通学に要する経費は自己負担となります。

<放送大学>

派遣できる学部	教養学部
履修科目	放送大学が指定する授業科目のうち、本学が有益と認める科目
履修期間	1学期ごと
履修申込申請締切	前期（4月～7月）・・・前年度の1月末 後期（10月～1月）・・・当該年度の6月末
その他	①授業料の負担あり。 ②通学に要する経費は自己負担となります。

<教育ネットワーク中国>

履修科目	教育ネットワーク中国と協定を締結している大学が提供している科目
履修期間	1年以内
履修申込申請締切	各大学が定めている申込申請期限
その他	①授業料の負担はありません。 ②通学に要する経費等は自己負担となります。 ※詳細は、教育ネットワーク中国のホームページ（「単位互換事業」のページ）を参考にしてください。 URL http://www.enica.jp/

(3) 注意事項

- ①上記の単位互換協定を締結している大学等の他にも、「科目等履修生」を募集している大学等であれば、履修して単位を認定することができます。ただし、この場合は、各大学が定める入学検定料、入学料、授業料などの納付が必要なる場合があります。
- ②各大学等で定められた期日までに申請を行う必要がありますが、それまでに本学で所定の手続きを経る必要があります。本学以外の大学等の科目の履修を希望する場合は、申込期日の2か月前までに、事務局学務課教務係まで申し出てください。
- ③他の大学等で履修する場合、その単位数は、年間履修上限単位数の枠の中に含まれます。
- ④他学部または他の大学等で履修した科目は、「島根県立大学総合政策学部他の大学等における履修等に関する規程」に基づき単位認定を行います。詳細は、同規程を確認してください。
- ⑤他の大学等で履修した科目の単位認定の上限は、30 単位です。
- ⑥上記の他詳細については、事務局学務課教務係にお問い合わせください。

2 海外留学による単位認定

協定留学及び認定留学で修得した単位は、「島根県立大学総合政策学部他の大学等における履修等に関する規程」に基づき単位認定を行います。

ただし、海外留学による単位認定については下記の点に注意してください。

- ①一部の科目を除き、留学中は本学の科目を履修することはできません。
- ②これまでの単位修得状況などにより、単位認定の手続きを行っても卒業要件単位として認定することができない場合があります（その場合、要件外（自由科目）として認定されます）。
- ③海外の大学で履修する場合も、その単位は、年間履修上限単位数の枠の中に含まれます。
- ④単位認定は帰国後に手続きを行いますので、事前に認定内容を確認することはできません。
- ⑤学則第 25 条に規定する留学の単位認定の上限は、40 単位です。1 年を超える留学の場合は、60 単位を上限に認定することができます。

この他、海外留学における単位認定についての詳細は、学務課教務係にご相談ください。

3 資格試験による単位認定

TOEICなどの外国語能力試験の成績等により、以下の3つの場合に、本学で開設している科目としての単位認定を受けることができます。詳細は学務課教務係までお問い合わせください。なお、資格試験による単位認定を受ける場合、その単位は履修上限単位数には含まれません。

(1) 留学をした学生

本学在学又は休学中に英語圏、中国語圏、韓国語圏、又はロシア語圏の国における教育施設等において本学の1 Semesterに相当する期間以上学修した場合

1-1 英語 (2017年度以降入学生対象)

試験種別	成績等	認定授業科目	認定単位数		評価
			海外における学修期間		
①TOEIC ②TOEFL-ITP ③TOEFL-iBT	①430～515点	フレッシュマン英語ファウンデーションⅠ	1 Semester以上	3単位まで	可
	②400～449点		2 Semester以上	6単位まで	
	③ 32～ 44点	フレッシュマン英語ファウンデーションⅡ	1 Semester以上	3単位まで	良
	①520～645点	フレッシュマン英語コミュニケーションⅠ	2 Semester以上	6単位まで	
	②450～475点	フレッシュマン英語コミュニケーションⅡ	1 Semester以上	3単位まで	優
	③ 45～ 52点	ソフモア英語コミュニケーションⅠ	2 Semester以上	6単位まで	
	①650～695点	ソフモア英語コミュニケーションⅡ	1 Semester以上	3単位まで	秀
	②476～485点	英語リーディングⅠ・Ⅱ	2 Semester以上	6単位まで	
	③ 53～55点	海外英語研修Ⅰ・Ⅱ	1 Semester以上	3単位まで	
	①700点以上	異文化コミュニケーション実践英語	2 Semester以上	6単位まで	
	②486点以上	多文化理解特別演習Ⅰ	1 Semester以上	3単位まで	
	③56点以上		2 Semester以上	6単位まで	

注1 TOEICとは、Test of English for International Communicationの略で、アメリカ合衆国の法人であるETS (Educational Testing Service) が英語の能力を判定するために実施する以下の試験とする。(別表2、一 英語において同じ)

(1) TOEIC 公開試験

(2) TOEIC IP試験 (本学を試験会場として実施するもの)

注2 TOEFLとは、Test of English as a Foreign Languageの略で、アメリカ合衆国の法人であるETS (Educational Testing Service)が英語の能力を判定するために実施する以下の試験とする。

(1) TOEFL-ITP (本学を試験会場として実施するもの)

(2) TOEFL-iBT (インターネット版TOEFL)

注3 海外における学修期間に記すSemesterとは、本学におけるSemesterに相当すると認められるものとする。

注4 成績評価は、上表のTOEICまたはTOEFLの成績に申請者の海外の教育施設等における学修の成果を勘案して行う。

注5 単位認定を申請する予定が有る者は、留学前に「海外英語研修」の担当教員と面談して指導を受け、留学後に学習成果を発表する必要がある。

注6 編入学生については、2019年度入学生より本表を適用する。

(2016 年度以前入学生対象)

試験種別	成績等	認定授業科目	認定単位数		評価
			海外における学修期間		
①TOEIC ②TOEFL-ITP ③TOEFL-iBT	①430～519 点	フレッシュマン英語ファウンデーション I	1 セメスター以上	3 単位まで	可
	②400～449 点	フレッシュマン英語ファウンデーション II			
	③ 32～ 44 点	フレッシュマン英語コミュニケーション I			
	①520～649 点	フレッシュマン英語コミュニケーション II	1 セメスター以上	3 単位まで	良
		ソフモア英語コミュニケーション I			
		ソフモア英語コミュニケーション II			
	②450～499 点	英語リーディング I・II	2 セメスター以上	6 単位まで	
	③ 45～ 60 点	海外英語研修 I・II			
	① 650 点以上	異文化コミュニケーション実践英語	1 セメスター以上	3 単位まで	
多文化理解特別演習 I					
② 500 点以上					
③ 61 点以上		2 セメスター以上	6 単位まで		

注1 TOEIC とは、Test of English for International Communication の略で、アメリカ合衆国の法人である ETS (Educational Testing Service) が英語の能力を判定するために実施する以下の試験とする。(別表 2、一 英語において同じ)

(1) TOEIC 公開試験

(2) TOEIC IP 試験 (本学を試験会場として実施するもの)

注2 TOEFL とは、Test of English as a Foreign Language の略で、アメリカ合衆国の法人である ETS (Educational Testing Service) が英語の能力を判定するために実施する以下の試験とする。

(1) TOEFL-ITP (本学を試験会場として実施するもの)

(2) TOEFL-iBT (インターネット版 TOEFL)

注3 海外における学修期間に記すセメスターとは、本学におけるセメスターに相当すると認められるものとする。

注4 成績評価は、上表の TOEIC または TOEFL の成績に申請者の海外の教育施設等における学修の成果を勘案して行う。

注5 単位認定を申請する予定が有る者は、留学前に「海外英語研修」の担当教員と面談して指導を受け、留学後に学習成果を発表する必要がある。

1-2 中国語 中国国家漢語弁公室が実施している漢語水平考試
(2017 年度以降入学生対象)

試験種別	成績等	認定授業科目	認定単位数		評価
			海外における学修期間		
漢語水平考試 (筆記試験) 4 級	180 点～ 194 点	中国語 I 中国語 II 中国語 III 中国語 IV 中国語読解 I 中国語読解 II 中国語会話・聴解 I 中国語会話・聴解 II	1 セメスター以上	2 単位まで	可
			2 セメスター以上	4 単位まで	
			3 セメスター以上	6 単位まで	
	195 点～ 209 点		1 セメスター以上	2 単位まで	良
			2 セメスター以上	4 単位まで	
	210 点以上		3 セメスター以上	6 単位まで	優
			1 セメスター以上	2 単位まで	
			2 セメスター以上	4 単位まで	
3 セメスター以上	6 単位まで				
4 セメスター以上	8 単位まで				
漢語水平考試 (筆記試験) 5 級、6 級	180 点以上	中国語 I	1 セメスター以上	2 単位まで	秀
		中国語 II			
		中国語 III	2 セメスター以上	4 単位まで	
		中国語 IV			
中国語読解 I	3 セメスター以上	6 単位まで			
中国語読解 II					
中国語会話・聴解 I	4 セメスター以上	8 単位まで			
中国語会話・聴解 II					

注 1 「漢語水平考試（筆記試験）」とは、中国の国家漢語弁公室が主催し、実施する中国語を母国語としない中国語学習者のための公認の中国語能力認定標準化国家試験のことである。日本において、社団法人日本青少年育成協会の後援のもとで、HSK 日本実施委員会（HSK 日本事務局）が実施する漢語水平考試（筆記試験）を含むものとする。

注 2 海外における学修期間に記されるセメスターとは、本学におけるセメスターに相当すると認められるものとする。

注 3 成績評価は、上表の漢語水平考試の成績に申請者の海外の教育施設等における学修の成果を勘案して行う。

注 4 編入学生については、2019 年度入学生より本表を適用する。

(2016 年度以前入学生対象)

試験種別	成績等	認定授業科目	認定単位数		評価
			海外における学修期間		
漢語水平考試 (筆記試験) 4 級	180 点～ 194 点	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語Ⅲ 中国語Ⅳ 中国語読解Ⅰ 中国語読解Ⅱ 中国語会話・聴解Ⅰ 中国語会話・聴解Ⅱ	1 セメスター以上	3 単位まで	可
			2 セメスター以上	6 単位まで	
	195 点～ 209 点		1 セメスター以上	3 単位まで	良
			2 セメスター以上	6 単位まで	
	210 点以上		1 セメスター以上	3 単位まで	優
			2 セメスター以上	6 単位まで	
漢語水平考試 (筆記試験) 5 級、6 級	180 点以上	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語Ⅲ 中国語Ⅳ 中国語読解Ⅰ 中国語読解Ⅱ 中国語会話・聴解Ⅰ 中国語会話・聴解Ⅱ	1 セメスター以上	3 単位まで	優
			2 セメスター以上	6 単位まで	

注 1 「漢語水平考試（筆記試験）」とは、中国の国家漢語弁公室が主催し、実施する中国語を母国語としない中国語学習者のための公認の中国語能力認定標準化国家試験のことである。日本において、社団法人日本青少年育成協会の後援のもとで、HSK 日本実施委員会（HSK 日本事務局）が実施する漢語水平考試（筆記試験）を含むものとする。

注 2 海外における学修期間に記されるセメスターとは、本学におけるセメスターに相当すると認められるものとする。

注 3 成績評価は、上表の漢語水平考試の成績に申請者の海外の教育施設等における学修の成果を勘案して行う。

(2) 英語科目のうち必修であるものの再履修者（※）

試験種別	成績等	認定授業科目	認定単位数	評価
TOEIC	350～395点	フレッシュマン英語ファウンデーションⅠ フレッシュマン英語ファウンデーションⅡ	2単位まで	可
	400～445点	フレッシュマン英語ファウンデーションⅠ フレッシュマン英語ファウンデーションⅡ フレッシュマン英語コミュニケーションⅠ フレッシュマン英語コミュニケーションⅡ	4単位まで	
	450点以上	ソフモア英語コミュニケーションⅠ ソフモア英語コミュニケーションⅡ	6単位まで	

注1 再履修者については、再履修した科目について成績評価を受けた場合のみ認定の対象とする。再々履修者及び編入学生の再履修者についてはこの限りではない。

(※) 再履修者とは

「再履修をした結果、成績評価が「不可」となった者」をいいます。再履修の登録をおこなっても、成績が「放棄」となった者は対象となりません。

(3) 蔚山大学校へのダブルディグリー候補学生向けの正規外授業科目「韓国語特別演習」を受講した学生

受講科目	認定授業科目	認定単位数	評価
韓国語特別演習Ⅰ、Ⅱ (正規外科目)	韓国語Ⅰ(B) 韓国語Ⅱ(B) 韓国語Ⅲ(B) 韓国語Ⅳ(B) 韓国語会話・聴解Ⅰ 韓国語会話・聴解Ⅱ 韓国語読解Ⅰ 韓国語読解Ⅱ	10単位まで	担当教員の所見及び韓国語能力に基づく

VI しまね地域マイスターについて

本学部では、島根県における地域課題に対して様々な取り組みを通じて、①地域事情に精通し、②地域主体を繋げるコーディネート力のある人材を育成し、③熱意をもち課題解決に取り組める実践力をもった人材を育成するため、「しまね地域マイスター」認定制度を導入しています。この制度は島根地域のさまざまな分野において、課題解決能力をもった学生を認定するものです。

「しまね地域マイスター」を目指す学生には、地域課題解決に向けてのフィールドワークなど、多くの実践的な取り組みが求められます。

(1) 「しまね地域マイスター」の認定に必要な単位数

「しまね地域マイスター」の認定に必要な単位数は以下のとおりです。

また、総合化演習科目は「地域共生演習」を、卒業研究は「地域共生卒業研究」を修得しなければなりません。

区 分			必要単位数		
			必修	選択必修	選択
社会科学の考え方とそれに基づく実践基礎科目			11	—	—
専門的知見を持ち、実践的に課題を解決するために、履修することが強く推奨される科目群	地域を学ぶ上での基盤科目と調査スキルを学ぶ科目群	地域を学ぶ上での基盤科目と調査スキルを学ぶ科目	—	8	8
		「地域」の各論を学ぶ科目	—	8	
	「地域」を幅広い視点で学ぶ科目		—	—	
合 計			11	16	8

(注) 選択必修科目において、必要な単位数を超えて修得した単位については、選択科目の単位に含めることができます。

(2) 相談窓口

連携交流課地域連携室（メディアセンター2階）

VII 授業科目インデックス

■2024年度授業科目インデックス

番号	科目名	科目分類	配当年次	単位数	卒業要件	担当
あ	アカデミック・ライティング	語学	3春	2	選択	ハントリー
	アジア近現代史	総合教養/地理・歴史	2・3・4春	2	選択	苗
	アジア比較政治	専門/プログラム専門 (国際関係・北東アジア) /政治	2・3・4春	2	選択	深串
	アメリカ近現代史	総合教養/地理・歴史	2・3・4春	2	選択	佐藤
	アメリカ文学	総合教養/文化	2・3・4秋	2	選択	宮澤
	安全保障論	専門/プログラム専門 (国際関係・北東アジア) /政治	3・4秋	2	選択	赤坂
い	イギリス近現代史	総合教養/地理・歴史	2・3・4春	2	選択	井内
	イギリス文学	総合教養/文化	2・3・4春	2	選択	吉中
	異文化コミュニケーション実践英語	語学	1・2秋	1	選択	ハントリー
	異文化理解(アメリカ・ハワイ)	総合教養/文化	2秋	2	選択	ヘネベリー
	異文化理解(カナダ・ランガラ)	総合教養/文化	2春	2	選択	ハントリー
	異文化理解(韓国)	総合教養/文化	2春	2	選択	鄭
	異文化理解(中国)	総合教養/文化	2春	2	選択	犬塚
異文化理解(ロシア)	総合教養/文化	2春	2	選択	シローコフ	
え	英語学概論Ⅰ	語学	2春	2	選択	島田
	英語学概論Ⅱ	語学	2秋	2	選択	島田
	英字新聞リーディング	語学	2・3・4春	2	選択	島田
	映像コミュニケーション論	総合教養/文化	2・3・4春	2	選択	瓜生
	映像表現論	総合教養/文化	2・3・4秋	2	選択	西嶋
	英米文学リーディング	語学	3・4春	2	選択	ケイン
	NPO・NGO論	専門/プログラム専門 (国際関係・北東アジア・ 社会経済・地域政策)/社会	2・3・4春	2	選択	足立
か	海外英語研修Ⅱ	語学	1・2・3・4秋	2	選択	江口
	海外韓国語研修Ⅰ	語学	1・2・3・4春	2	選択	鄭
	海外韓国語研修Ⅱ	語学	1・2・3・4春	2	選択	鄭
	海外中国語研修	語学	3春	2	選択	張(軼)
	海外ロシア語研修	語学	3春	2	選択	シローコフ
	会計学	基盤/経営	2・3秋	2	選択	池村
	家族社会学	専門/プログラム専門 (地域政策)/社会	2・3春	2	選択	角
	環境関係法	専門/プログラム専門 (地域政策)/環境	2・3秋	2	選択	岩本
	環境経済学	専門/プログラム専門 (国際関係・社会経済・ 地域政策)/環境	2・3秋	2	選択	豊田
	環境政策論	専門/プログラム専門 (地域政策)/環境	2・3春	2	選択	伊藤
	環境文化論	専門/プログラム専門 (地域政策)/環境	2・3・4春	2	選択	八田
	環境保全論	基盤/環境	1・2秋	2	選択	北尾
	韓国語Ⅰ(A)(再)	語学	1春・秋	1	選択必修	李(正)
	韓国語Ⅱ(A)(再)	語学	2春・秋	1	選択必修	李(正)
	韓国語Ⅲ(A)(再)	語学	2春・秋	1	選択必修	李(正)
	韓国語Ⅳ(A)(再)	語学	3春	1	選択必修	李(正)
	韓国語Ⅳ(B)(再)	語学	3春	1	選択必修	李(正)
	韓国語Ⅳ(A)(再)	語学	3春	1	選択必修	李(正)
	韓国語Ⅳ(B)(再)	語学	3春	1	選択必修	李(正)
	韓国語読解Ⅰ	語学	2・3春	2	選択	高(へみ)
	韓国語読解Ⅱ	語学	3・4秋	2	選択	高(へみ)
	き	企業会計	専門/プログラム専門 (社会経済)/経営	2・3春	2	選択
キャリア形成Ⅰ(再)		専門/全領域 /キャリア体験	1春	2	必修	丸山
キャリア形成Ⅱ(再)		専門/全領域 /キャリア体験	3春	2	必修	高須
キャリアプラクティス		専門/全領域/キャリア体験	1・2・3春秋	1	選択	高須
行政学		基盤/政策	1・2秋	2	選択	光延
行政学入門		基盤/政策	1春	2	選択	光延
行政法Ⅰ		専門/プログラム専門 (地域政策)/法律	2・3春	2	選択	岩本
行政法Ⅱ		専門/プログラム専門 (地域政策)/法律	2・3秋	2	選択	岩本
近現代史入門		総合教養/地理・歴史	1・2春	2	選択	石田

番号	科目名	科目分類	配当年次	単位数	卒業要件	担当	
け	経営科学	専門/プログラム専門 (社会経済)/経営	2・3・4 春	2	選択	村山	
	経営学総論	基盤/経営	1 春	2	選択	村山	
	経営管理論	基盤/経営	1・2 秋	2	選択	桑田	
	経営戦略論	専門/プログラム専門 (社会経済)/経営	3・4春	2	選択	桑田	
	経営組織論	専門/プログラム専門 (社会経済)/経営	2・3秋	2	選択	村山	
	経済学入門	基盤/経済	1 春	2	選択	建井	
	経済政策論	専門/プログラム専門 (社会経済・地域政策) /政策	3・4 秋	2	選択	西藤	
	芸術学	総合教養/文化	2・3・4 秋	2	選択	八田	
	刑法	基盤/法律	1・2 秋	2	選択	三宅	
	現代企業論	専門/プログラム専門 (社会経済)/経営	2・3 秋	2	選択	桑田	
	憲法Ⅰ	基盤/法律	1・2 春	2	選択	岡本	
憲法Ⅱ	専門/プログラム専門 (地域政策)/法律	2・3 春	2	選択	岡本		
こ	公共政策論	専門/プログラム専門 (社会経済・地域政策) /政策	3・4 春	2	選択	西藤	
	国際開発論	専門/プログラム専門 (国際関係・北東アジア・ 社会経済)/経済	2・3 春	2	選択	柏木	
	国際関係概論	基盤/国際関係	2・3 秋	2	選択	佐藤	
	国際機構論	専門/プログラム専門 (国際関係)/国際関係	2・3 春	2	選択	庄司	
	国際社会論	専門/プログラム専門 (国際関係・北東アジア) /社会	2・3 春	2	選択	山口	
	国際政治学	専門/プログラム専門 (国際関係)/政治	2・3 秋	2	選択	高(一)	
	国際政治学入門	基盤/政治	1・2 春	2	選択	赤坂	
	国際法	専門/プログラム専門 (国際関係・北東アジア・ 地域政策)/法律	3・4 春	2	選択	李(禎)	
	コミュニティ政策	専門/プログラム専門 (地域政策)/政策	2・3 春	2	選択	杉岡	
	コンピュータ・リテラシー(再)	情報	1 春	2	必修	松田	
さ	財政学	専門/プログラム専門 (地域政策)/政策	2・3 春	2	選択	鈴木	
	山陰地域フィールド体験学習	専門/全領域/キャリア体験	1・2 春	2	選択	建井、林	
し	自然保護思想	基盤/環境	1 春	2	選択	北尾	
	質的調査法	情報	2 春	2	選択	宮下	
	しまね地域共生学入門(再)	基盤/社会	1 春	2	必修	建井	
	社会学	基盤/社会	1・2 秋	2	選択	村井	
	社会調査法	情報	2 秋	2	選択	伊藤	
	社会保障論	専門/プログラム専門 (社会経済)/社会	3・4 春	2	選択	角	
	上級英語Ⅰ(プレゼンテーションとスピーチ)	語学	3 春	2	選択	ソノヤマ	
	上級英語Ⅱ(ディスカッションとディベート)	語学	3 秋	2	選択	ソノヤマ	
	商法	専門/プログラム専門 (社会経済・地域政策) /法律	3・4 春	2	選択	王 姝文	
	情報社会論	基盤/社会	2・3 春	2	選択	金野	
	情報政策論	専門/プログラム専門 (地域政策)/政策	3・4 秋	2	選択	金野	
す	情報処理の基礎Ⅰ	情報	2 秋	3	選択	瀬戸	
	情報リテラシー(再)	情報	1 春	2	必修	吉田	
	人文地理学	総合教養/地理・歴史	2・3・4 秋	2	選択	林	
	心理学入門	総合教養/人間科学	2・3・4 春	2	選択	岡本(倫)	
	水産経済政策論	専門/プログラム専門 (社会経済)/政策	3・4 春	2	選択	三輪	
	せ	政策過程論	専門/プログラム専門 (地域政策)/政策	2・3 春	2	選択	奥田
		政治学	基盤/政治	1・2 秋	2	選択	濱田(泰)
政治学入門		基盤/政治	1 春	2	選択	石田	
政治思想史		基盤/政治	2・3 春	2	選択	濱田(泰)	
西洋近代史		総合教養/地理・歴史	2・3・4 春	2	選択	井内	
戦後日本政治外交史		専門/プログラム専門 (国際関係・北東アジア) /政治	3・4 秋	2	選択	高(一)	

番号	科目名	科目分類	配当年次	単位数	卒業要件	担当
そ	総合演習Ⅰ(再)	総合化演習科目	2春	2	必修	演習科目担当教員
	総合演習Ⅱ(再)	総合化演習科目	2秋	2	必修	演習科目担当教員
	総合演習Ⅲ(再)	総合化演習科目	3春	2	必修	演習科目担当教員
	総合演習Ⅳ(再)	総合化演習科目	3秋	2	必修	演習科目担当教員
	総合演習Ⅴ(再)	総合化演習科目	4春	2	必修	演習科目担当教員
	総合演習Ⅵ(再)	総合化演習科目	4秋	2	必修	演習科目担当教員
	総合政策概論(再)	基盤/政策	2春	2	必修	林
	卒業研究	総合化演習科目	4秋	4	必修	演習科目担当教員
	ソフモア英語コミュニケーションⅠ(再)	語学	2春	1	必修	トーマスT
	ソフモア英語コミュニケーションⅡ(再)	語学	2秋	1	必修	トーマスT
た	多文化理解特別演習Ⅰ	語学	2・3・4春	2	選択	ケイン
	多文化理解特別演習Ⅱ	語学	2・3・4秋	2	選択	ケイン
ち	地域観光資源論	専門/プログラム専門 (地域政策)/経営	2・3秋	2	選択	林
	地域共生演習Ⅱ(再)	総合化演習科目	2秋	2	選択必修	村山
	地域共生演習Ⅲ(再)	総合化演習科目	3春	2	選択必修	村山
	地域共生演習Ⅳ(再)	総合化演習科目	3秋	2	選択必修	村山
	地域共生演習Ⅴ(再)	総合化演習科目	4春	2	選択必修	村山
	地域共生演習Ⅵ(再)	総合化演習科目	4秋	2	選択必修	村山
	地域共生卒業研究	総合化演習科目	4秋	4	選択必修	村山
	地域経営論	専門/プログラム専門 (社会経済・地域政策) /経営	2・3春	2	選択	久保田(章)
	地域経済論	専門/プログラム専門 (社会経済・地域政策) /経済	2・3秋	2	選択	鈴木
	地域産業政策論	専門/プログラム専門 (社会経済・地域政策) /政策	3・4秋	2	選択	佐々木
地域社会学	専門/プログラム専門 (地域政策)/社会	2・3秋	2	選択	田中(輝)	
ち	地域総合計画論	専門/プログラム専門 (地域政策)/政策	3・4春	2	選択	恩田
	地域文化論	総合教養/文化	2・3・4秋	2	選択	橋本
	地方自治論	専門/プログラム専門 (地域政策)/政策	2・3春	2	選択	光延
	中国語Ⅲ(A)(再)	語学	2春・秋	1	選択必修	邱
	中国語Ⅲ(B)(再)	語学	2春	1	選択必修	邱
	中国語Ⅳ(A)(再)	語学	3春・秋	1	選択必修	邱
	中国語Ⅳ(B)(再)	語学	3秋	1	選択必修	邱
	中国語Ⅳ(A)(再)	語学	3春・秋	1	選択必修	邱
	中国語Ⅳ(B)(再)	語学	3秋	1	選択必修	邱
	中国語読解Ⅰ	語学	2・3春	2	選択	犬塚
	中国語読解Ⅱ	語学	3・4秋	2	選択	犬塚
	中国社会論	専門/プログラム専門 (国際関係・北東アジア) /社会	2・3春	2	選択	深串
	中国政治外交論	専門/プログラム専門 (国際関係・北東アジア) /政治	2・3秋	2	選択	深串
	中小企業論	専門/プログラム専門 (社会経済)/経営	2・3春	2	選択	佐々木
	朝鮮半島社会論	専門/プログラム専門 (国際関係・北東アジア) /社会	2・3秋	2	選択	福原
朝鮮半島政治外交論	専門/プログラム専門 (国際関係・北東アジア) /政治	3・4春	2	選択	福原	
と	統計学Ⅰ(再)	情報	1秋	2	必修	寺田
	統計学Ⅱ(再)	情報	2春	2	必修	寺田
に	日中関係論	専門/プログラム専門 (国際関係・北東アジア) /国際関係	3・4秋	2	選択	李(暁)
	日本語Ⅰ	語学	1春	1	選択必修	胡子
	日本語Ⅱ	語学	1春	1	選択必修	胡子
	日本語Ⅲ	語学	1秋	1	選択必修	胡子
	日本語Ⅳ	語学	1秋	1	選択必修	胡子
	日本思想史	総合教養/人間科学	2・3・4春	2	選択	濱野
	日本朝鮮半島交流史	専門/プログラム専門 (国際関係・北東アジア) /国際関係	3・4秋	2	選択	石田
日本文化論	総合教養/文化	2・3・4秋	2	選択	小泉	
ひ	比較宗教論	総合教養/人間科学	2・3・4秋	2	選択	渡辺(圭)
	比較文化論	総合教養/文化	2・3・4秋	2	選択	渡部(望)

番号	科目名	科目分類	配当年次	単位数	卒業要件	担当
ふ	福祉社会学	基盤/社会	2・3 秋	2	選択	角
	フレッシュマン英語コミュニケーションⅠ	語学	1 春	1	必修	ヘネベリー
	フレッシュマン英語コミュニケーションⅡ	語学	1 秋	1	必修	トーマスT
	フレッシュマン英語ファウンデーションⅠ(再)	語学	1 春	1	必修	野田
	フレッシュマン英語ファウンデーションⅡ(再)	語学	1 秋	1	必修	野田
	プログラミングの基礎	情報	3・4 春	2	選択	小渡
	文学	総合教養/文化	2・3・4 春	2	選択	渡部(望)
	文化人類学	総合教養/文化	2・3・4 春	2	選択	高谷
へ	文化政策論	専門/プログラム専門 (地域政策)/政策	3・4 秋	2	選択	松本
	平和学基礎論	専門/プログラム専門 (国際関係)/政治	3・4 秋	2	選択	濱田(泰)
ほ	ベンチャービジネス論	専門/プログラム専門 (社会経済・地域政策) /キャリア体験	2・3 春	2	選択	佐々木
	法学入門	基盤/法律	1 春	2	選択	岩本
ま	北東アジア関係概論	専門/プログラム専門 (国際関係・北東アジア) /国際関係	2・3 秋	2	選択	井上
	マーケティング論	専門/プログラム専門 (社会経済)/経営	2・3 秋	2	選択	村山
み	マクロ経済学	基盤/経済	1・2 秋	2	選択	鈴木
	ミクロ経済学	基盤/経済	2・3 秋	2	選択	須原
	民法Ⅰ(総則)	基盤/法律	1・2 秋	2	選択	賈
	民法Ⅱ(物権)	専門/プログラム専門 (地域政策)/法律	2・3 春	2	選択	賈
	民法Ⅲ(債権)	専門/プログラム専門 (地域政策)/法律	2・3 春	2	選択	賈
	民法と家族	基盤/法律	1・2 秋	2	選択	賈
ろ	モンゴル語と文化	語学	2・3・4 春	2	選択	孟
	労働法	専門/プログラム専門 (地域政策)/法律	2・3・4 春	2	選択	未定
	ロシア社会論	専門/プログラム専門 (国際関係・北東アジア) /社会	2・3 春	2	選択	山本
	ロシア政治経済論	専門/プログラム専門 (国際関係・北東アジア) /政治	3・4 秋	2	選択	山本

2024年度 浜田キャンパス学部非常勤講師一覧

氏名	現所属	担当科目
赤坂 一念	島根県立大学松江キャンパス教授	グローバル時代の平和と安全[国関・国コ・地経・地公・地づ] 安全保障論[総] 国際社会と政治[国関・国コ・地経・地公・地づ] 国際政治学入門[総]
足立 治郎	特定非営利活動法人「環境・持続社会」研究センター事務局長	グローバル市民社会論[国関・国コ・地経・地公・地づ] NPO・NGO論[総]
有田 昭一郎	中山間地域研究センター地域研究科長	農業経済政策論[地経・地公・地づ]
李 正吉	島根県立大学非常勤講師	韓国語Ⅰ・Ⅱ[国関・国コ・地経・地公・地づ] 韓国語コミュニケーションⅡ[国関・国コ] 韓国語Ⅰ[A]・Ⅱ[A]・Ⅲ[A]・Ⅳ[A]・Ⅳ[B](再)[総] 韓国語特別演習Ⅰ・Ⅱ
池村 恵一	東洋大学経営学部会計ファイナンス学科准教授	会計学[地経・地公・地づ・総] 企業会計[地経・地公・地づ・総]
泉 洋一	山陰合同銀行地域振興部上席研究員	地域金融論[地経・地公・地づ]
井内 太郎	広島大学大学院人間社会科学部研究科教授	西洋近代史[国関・国コ・地経・地公・地づ] イギリス近現代史・西洋近代史[総]
瓜生 忠久	島根県立大学名誉教授	映像コミュニケーション論[国関・国コ・総]
胡子 和子	一般財団法人広島湾地域資源ネットワーク代表理事 比治山大学現代文化学部非常勤講師 広島県 異文化理解促進プログラム講師	日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ[国関・国コ・地経・地公・地づ・総] 第二言語習得論[国関・国コ] 多文化交流[国関・国コ・地経・地公・地づ]
王 姝文	安徽財經大学法学院准教授	商法[地経・地公・地づ・総]
岡田 一郎	島根県立大学非常勤講師	地方政治[地経・地公・地づ]
岡本 倫	医療法人さくら並木会さくらクリニック益田臨床心理士・公認心理師	心理学概論[国関・国コ・地経・地公・地づ] 心理学入門[総]
沖村 理史	広島市立大学広島平和研究所教授	アジア環境論[国関・国コ・地経・地公・地づ]
奥田 恒	金沢大学人間社会研究地域創造学系講師	政策過程論[国関・国コ・地経・地公・地づ・総]
恩田 守雄	島根県立大学非常勤講師・客員研究員	地域総合計画論[地経・地公・地づ・総]
柏木 健一	筑波大学人文社会系教授	国際開発論[国関・国コ・地経・地公・地づ・総]
北尾 邦伸	島根大学名誉教授	環境保全論[地経・地公・地づ・総] 自然保護思想[地経・地公・地づ・総]
北野 由佳	広島大学非常勤講師	韓国語Ⅰ・Ⅱ[国関・国コ・地経・地公・地づ] 中国語Ⅰ・Ⅱ[国関・国コ・地経・地公・地づ] 中国語コミュニケーションⅠ・Ⅱ[国関・国コ] 実践中国語Ⅰ・Ⅱ[国関・国コ] 中国語Ⅲ[B]・Ⅳ[B](再)[総] 中国語Ⅲ[A]・Ⅳ[A](再)[総]
邱 燕凌	島根県立大学非常勤講師	地域経営論[地経・地公・地づ・総]
久保田 章市	浜田市長	音声学[国関・国コ]
桑本 裕二	鳥取県東伯郡琴浦町教育総務課日本語支援員	日本文化論[国関・国コ・地経・地公・地づ・総]
小泉 凡	島根県立大学短期大学部名誉教授	韓国語読解Ⅰ・Ⅱ[国関・国コ] 実践韓国語Ⅰ・Ⅱ[国関・国コ]
高 へみ	島根県立大学非常勤講師	専門演習Ⅲ・Ⅳ[国コ] 卒業研究[国コ]
小林 明子	立命館大学文学部准教授	南アジア研究[国関・国コ]
近藤 高史	東京福祉大学留学生教育センター特任教授	情報社会論[地経・地公・地づ・総] ゲーム理論[地経・地公・地づ] 情報政策論[総]
金野 和弘	大阪公立大学大学院都市経営研究科教授	交通・観光経済論[地経・地公・地づ] 経済政策論[総] 公共政策論[地経・地公・地づ・総]
西藤 真一	桃山学院大学経営学部教授	島根県の水産業[国関・国コ・地経・地公・地づ] 島根県の水産業[国関・国コ・地経・地公・地づ] 島根県の水産業[国関・国コ・地経・地公・地づ] 島根県の水産業[国関・国コ・地経・地公・地づ] 島根県の水産業[国関・国コ・地経・地公・地づ] 島根県の水産業[国関・国コ・地経・地公・地づ] 島根県の水産業[国関・国コ・地経・地公・地づ]
沖野 晃	島根県水産技術センター島根県職員	島根県の水産業[国関・国コ・地経・地公・地づ]
開内 洋	島根県水産技術センター島根県職員	島根県の水産業[国関・国コ・地経・地公・地づ]
福井 克也	島根県水産技術センター島根県職員	島根県の水産業[国関・国コ・地経・地公・地づ]
岡本 満	島根県水産技術センター島根県職員	島根県の水産業[国関・国コ・地経・地公・地づ]
細田 昇	島根県水産技術センター島根県職員	島根県の水産業[国関・国コ・地経・地公・地づ]
松本 洋典	島根県水産技術センター島根県職員	島根県の水産業[国関・国コ・地経・地公・地づ]
庄司 克宏	中央大学総合政策学部・大学院総合政策研究科教授	国際機構論[国関・国コ・総]
杉岡 秀紀	福知山公立大学地域経営学部准教授	コミュニティ政策論[地経・地公・地づ] コミュニティ政策[総]
瀬戸 和希	島根大学数理・データサイエンス教育研究センター助教	数的処理の基礎[国関・国コ・地経・地公・地づ] 情報処理の基礎Ⅰ[総]
園山 ゼナ アロハ	島根県立大学非常勤講師	英語Ⅰ・Ⅱ[国関・国コ・地経・地公・地づ] エッセイライティングⅠ[国関・国コ] プレゼンテーション[国関・国コ] 上級英語Ⅰ[総] ディベート[国関・国コ] 上級英語Ⅱ[総]
タイラー トーマス	島根県立大学非常勤講師	リサーチペーパー・ライティング[国関・国コ] 英語Ⅰ・Ⅱ[国関・国コ・地経・地公・地づ] 英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ[国関・国コ] 英語Ⅰ・Ⅱ(再)[国関・国コ・地経・地公・地づ] フレッシュマン英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ(再)[総] ソフモア英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ(再)[総]
高須 佳奈	島根県立大学松江キャンパス准教授	キャリアプランニング[国関・国コ・地経・地公・地づ] キャリア形成Ⅱ(再)[総] キャリアプラクティス[国関・国コ・地経・地公・地づ] 自治体・NPO等キャリアプラクティス[地経・地公・地づ]
高谷 紀夫	広島大学大学院人間社会科学部研究科名誉教授	文化人類学[国関・国コ・地経・地公・地づ・総]
近 勝彦	大阪公立大学大学院都市経営研究科教授	情報経済論[地経・地公・地づ]
趙 姫淑	島根県立大学非常勤講師	ロシア語Ⅰ・Ⅱ[国関・国コ・地経・地公・地づ] ロシア語コミュニケーションⅡ[国関・国コ] ロシア語読解Ⅰ・Ⅱ[国関・国コ] 実践ロシア語Ⅰ・Ⅱ[国関・国コ] 韓国語コミュニケーションⅠ[国関・国コ] 韓国語特別演習Ⅰ・Ⅱ

2024年度 浜田キャンパス学部非常勤講師一覧

氏 名	現 所 属	担 当 科 目
豊田 佳隆	島根県立大学非常勤講師	経済数学の基礎[国関・国コ・地経・地公・地づ]
仲野 義文	特定非営利活動法人石見銀山資料館理事長・館長	地域文化論[地経・地公・地づ] 文化遺産活用法[地経・地公・地づ]
野田 大三郎	島根県立大学非常勤講師	ビジネス英語入門Ⅰ・Ⅱ[国関・国コ・地経・地公・地づ] フレッシュマン英語ファウンデーションⅠ・Ⅱ(再)[総]
橋本 剛	島根県教育庁文化財課 古代文化センター主任研究員	地域文化入門[国関・国コ・地経・地公・地づ] 地域文化論[総]
八田 典子	島根県立大学名誉教授	環境文化論[地経・地公・地づ・総] 芸術学[国関・国コ・地経・地公・地づ・総]
林 正久	島根大学名誉教授	自然地理学[国関・国コ・地経・地公・地づ]
藤川 久昭	クラウンズ法律事務所代表弁護士	労働法[地経・地公・地づ・総]
松尾 哲也	大阪大学大学院人文学研究科人文学林准教授	専門演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ[地公] 卒業研究[地公] 政治哲学[国関・国コ・地経・地公・地づ]
松本 茂章	文化と地域デザイン研究所代表・法政大学多摩共生社会研究所特任研究員・法政大学大学院公共政策研究科兼任講師	文化政策論[地経・地公・地づ・総]
丸山 実子	島根大学地域未来協創本部人材育成・キャリアデザイン部門准教授	キャリアデザイン[国関・国コ・地経・地公・地づ] キャリア形成Ⅰ(再)[総]
三宅 孝之	島根大学名誉教授	刑法[地経・地公・地づ・総]
宮澤 文雄	島根大学法学部言語文化学科講師	アメリカ文学[国関・国コ・総]
三輪 千年	元水産大学校教授	水産経済政策論[地経・地公・地づ・総]
山口 いずみ	島根県立大学非常勤講師	国際社会学[国関・国コ] 国際社会論[総]
山本 健	西南学院大学法学部国際関係法学科教授	ヨーロッパ統合論[国関・国コ]
吉田 宜久	島根県商工労働部産業推進課産業デジタル推進室 IT人材コーディネーター	情報リテラシー[国関・国コ・地経・地公・地づ] 情報リテラシー(再)[総]
吉中 孝志	広島大学大学院人間社会科学部研究科文学部教授	イギリス文学[国関・国コ・総]
李 禎之	岡山大学学術研究院社会文化科学学域教授	国際法[国関・国コ・地経・地公・地づ・総]
渡部 望	島根県立大学名誉教授	文学[国関・国コ・地経・地公・地づ・総] 比較文化論[国関・国コ・総]

※担当科目欄 [総]：総合政策学部総合政策学科、[国関]：国際関係学部国際関係学科国際関係コース、
[国コ]：国際関係学部国際関係学科国際コミュニケーションコース、[地経]：地域政策学部地域政策学科地域経済経営コース
[地公]：地域政策学部地域政策学科地域公共コース、[地づ]：地域政策学部地域政策学科地域づくりコース のこと

(※役職、担当科目等については作成時点から変更がある場合があります)

Ⅷ 本学大学院への進学について

本学大学院では、平成21年4月より「北東アジア開発研究科」を設置しています。

学部生の皆さんに係る本学大学院に関する制度は次のとおりです。大学院進学に関心のある方は気軽に学務課教務係を尋ねてください。

◆大学院科目早期履修制度

- ・学部在籍中に、大学院の授業を履修できる制度です。本学大学院に進学した場合、この制度を利用して修得した単位を大学院の単位として認定できます。
- ・3年次以上に在籍している学生で、履修希望科目担当教員の下承及び学部の指導教員の同意が必要となります。
- ・この制度を利用して大学院の授業を履修するために、別途、検定料や授業料は必要ありません。
- ・詳しくは、学務課教務係までお問い合わせください。

◆大学院スキル科目の履修制度

- ・北東アジア地域言語の読解力や情報解析のスキルに磨きをかけたい学部生が、大学院のスキル科目（国際言語演習科目、情報解析科目）を履修できる制度です。
- ・学部の成績通知表に大学院科目の単位を修得したことを記載することで、就職活動時に情報解析や語学に秀でた能力を有することを企業の採用担当者に印象づけることができます。
- ・3年次以上に在籍している学生が対象となります。
- ・大学院の授業科目を履修するための授業料は別途必要としません。
- ・修得した単位は、学部の自由単位として認定を受けるのか、大学院進学後の単位として認定を受けるのかを申請時点で選択できることとします。なお、申請時点で進路を明確に決めていない場合は、単位の認定を保留し、結果として大学院に進学する場合は大学院進学後に、進学しない場合は4年次の秋学期までに単位を認定することとします。
- ・詳しくは、学務課教務係までお問い合わせください。

◆推薦入学制度

- ・学部の成績において「秀」「優」の取得率が概ね70%以上あると、推薦入学の対象となります。推薦入学では、小論文試験と面接試験が課されます。